

アセンションBOOK 1

天の川銀河の物語 NO1 2013 年 8 月

Peace of Galactic Cluster

天の川銀河の物語 1

白鳥の六芒星物語



白鳥の六芒星物語 目次

第1章 旅の始まり天照大御神のメッセージ

第2章 ベガ 天照大御神の星

第3章 ヘびつかい座のラスアルハゲ星

第4章 白鳥座やペガサス座の仲間達

第5章 ヘーラクレス座のアルケイデース

第6章 北極星の創造主と大天使ラジエル

第7章 白鳥座の北十字を輝かせる星々

第8章 偉大なるマスターとドラゴン達達

第9章 白鳥の六芒星の結束

第10章 アルタイル星のマスターの救出

第11章 アルタイル星の再生

作者 瀬戸武志 & 宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式 HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界 <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

星座のイラストは下記からお借りしました。

88 星座図鑑 自然学習館

http://www.study-style.com/index_seiza.html

第1章 旅の始まり 天照大御神の言葉

PART1 旅の始まり

私は「TAKESHI」という名前で皆さんから呼ばれています。

「宇宙の光」というアチューメントや祈りの会などの活動を行うグループの代表です。

私は、2006年頃から、大天使やマスター、女神達のメッセージやエネルギーを受け止め、そのエネルギーを「アチューメント」という形で皆さんが、使用できるようにご紹介してきました。

「宇宙の光」のメンバーは、日本全国に80～100名ほどいて、私達が作っ達チューメントをお互いに行う事で、自分自身を癒し、お互いの意識を成長させる事を行ってきました。

そして、地球を癒し光で満たす為に、マスターや女神の光を地上に降ろすお手伝いをしてきました。

私達は女神やマスター、大天使達と共に、自分達を癒し地球と宇宙に平和をもたらす事を心から願っています。

その為に、この10年もの間、アチューメントや定期的な祈りの会を行ってきたのです。

私達にとって大きな転機となったのは、2013年の春頃より、天照大御神や大天使達によって、自分達のスピリットの一部であるシェンロン（神龍）を使用して、自分が現在いる場所から、自分の意識だけを使って他の場所に移動する方法を学んだ事でした。

この新たな能力の開花は、「宇宙の光」の中心メンバー全員に同時に起きました。

私が、アチューメントによって、その人のスピリットの一部であるシェンロンを出す事によって、私達は、シェンロンに乗ってどこでも自由に動けるようになりました。

私達は最初、富士山を守護する「金龍」を守るために、日本各地から富士に集まり「金龍」を癒しました。

そして、その当時行っていた「レムリアの神殿」を守護する為に、さそり座やペガサス座、プレアディウス星団へと自分の意識を飛ばして行く事が出来るようになりました。

私達は、大天使やマスター達の指導を受けながら、自分の意識を使って、様々な星に行く能力を高めていきました。

そして、それぞれの星の様子が同じように見えるように、メンバー同士の意識を共有するトレーニングも行いました。

私達は地球を超えて天の川銀河の様々な星へ出かけるための能力を身につけ、その星に存在しているマスターや女神達と話をしたり、共に活動できるようになっていったのです。

やがて、私達は「星のツアー」と題し、メンバー達とスカイプで話しながら、お互いのビジョンを確認し合って様々な星へ出かけて行く事になりました。

私達は、「星のツアー」を行う事で、その星に住むマスター達と交流を行いその星の様子や目的、使命などについて教えてもらいました。

又この宇宙を作り運営している創造主様とも出会い、宇宙の様々な秘密も教えてもらいました。

私達が、この特殊な能力を使用して行動する事に慣れてくると、マスター達は、天の川銀河の星々に関わる問題を解決するように私達にメッセージを送ってきました。

それは、地球人の私達にとって、全く未知の世界ですが、私達はマスターや女神に導かれるままに、様々な星に出かけていきました。

そして、創造主やマスター、大天使達に助けられて、天の川銀河の星々で起こっている大変な問題を解決していったのです。

さらに、私達は、2014 年になると天の川銀河だけでなくアンドロメダ銀河やオリオン星雲などの広大な宇宙を旅したり、この宇宙を創造する偉大な創造主達にお会いして、宇宙の深淵なる真実も教えていただけるようになりました。

私達は、2015 年になると、広大な宇宙で活躍する宇宙連合やアシュタール連合達にも認められ、共に活躍するようになりました。

私達は 2013 年の春から 2015 年の秋まで、毎週 2 回から 3 回、メンバー達で集まり星のツアーを続けました。

その回数は、2 年 2 か月の間に 200 回以上もの「星のツアー」が行われたと思います。

今回からご紹介するアセンションブックの 23 号までは、その星のツアーの記録です。

これは、私達地球人が、この宇宙のためにどれだけ献身的に働けるかという事を、創造主から試されていた事でもあります。

そして、私達が創造主やマスター達の期待どおりにいくつもの使命を果たした後に待っていたのは、「地球のアセンション」の最終的な仕上げの作業でした。

私達は地球に生きる人間として、地球人を代表して、地球のアセンションに関わる事を求められました。

多くのスターピープルやアシュタール連合達と共に、地球を光の世界へと導くための活動を、2015 年の春頃から始めました。

その記録は、「アセンションと創造主」「ファースト・コンタクト」につづられています。

地球に生きる人間でありながら、創造主の一部として存在する私達の活動は、一般の人が理解できる領域を超えていますが、これが地球のアセンションの真実なのです。

今回ご紹介する「白鳥の六芒星」の物語は、私達にとって最初の冒険の物語です。
最初の旅に出る私達には、はるか遠くの世界も、これからの起こる未来も見えていません。
しかし、この旅から、私達の大きな旅が始まったのです。
どうか、これから続く私達の不思議な旅を共に楽しんでください。

PART2 天照大御神からのメッセージ

私達は、2012 年春から天照大御神をはじめ天のウズメ、大国主大神のアチューメントを作りあげ、日本の神々の光をこの地球に降ろしていました。
そして、サラスバティをはじめ多くのマスター達に導かれるようにして「レムリアの6 神殿」のアチューメントを作ってきました。

私達はその過程で、自分のスピリットの分身である神龍を呼び出す能力を与えられました。
私達、「宇宙の光」のメンバー達はシェンロン（神龍）を使う事で、自分の意識を自由に移動せる事ができるようになりました。
最初私達は、仲間達と共に、富士山の金龍を癒したり地球の各地のパワースポットを巡り、地球に光を送っていました。
その様な時、天照大御神から大切なメッセージをいただきました。

天照大御神からのメッセージ

あなたにこの宇宙でも、とても大切な「白鳥の六芒星」のエネルギーについての話をしましょう

「白鳥の六芒星」のエネルギーというのは、事座のベガ星、白鳥座のデネブ星、そしてわし座のアルタイル星で構成される夏の大三角形と呼ばれる星座群の事です。

この星座群はさらに、ポラリス（北極星）やラスアルハゲ（へびつかい座）、エニフ（ペガサス座）などの星々を巻き込んで、「大きな白鳥の六芒星」と呼ばれる星座群を作っています。

この星座群の中心であるベガ星とデネブ星は、宇宙に偉大なる愛と神聖さ、そして覚醒をもたらす星です。

そして「大きな白鳥の六芒星」に属する星々がこの2つの星と協力し合いながら、天の川銀河の豊かな成長を作りだしてきました。

特に現在の北極星であるポラリス星には、偉大なる創造主様がいてベガ星とデネブ星の光の源となっています。

創造主が持つ神聖な光は、この2つの星から天の川銀河全域へと流れ込んでいきます。

ベガ星とデネブ星は、創造主の光を2つに分ち合って、天の川銀河の星々にその光を満たす為に、自らの星へとその光を導きました。

事座のベガ星は、主に霊的な成長を起こす覚醒の光です。

自らの魂とスピリットを成長させ多くの生命のために奉仕できるような魂を生み出します。

白鳥座のデネブ星は、優雅さと美しさの光であり、創造の偉大さを伝える光です。

この宇宙が創造され、芸術的とも呼べるような美しい創造物が生み出されました。

その光は、私達の心とスピリットを安らがせ、創造主との統合を図っていきます。

デネブ星から大きく羽を開いた場所にあるのが、ペガサス座のエニフ星です。

このエニフ星にいるペガサス達は、この宇宙の調和を守るために、愛をもって働いています。

調和と正義が求められる星には、彼らは惜しみなくサポートを行います。

またベガ星から羽を開いた場所にあるのは、へびつかい座のラスアルハゲ星です。

言うまでもなく、この宇宙の癒しと神聖さを保持する場所です。

この宇宙における癒しのエネルギーは、この星と深い関わりを持っています。

そしてこれらのすべてのエネルギーが集まる場所が、アルタイル星なのです。

大きな白鳥の足元に当たり、すべての光がここにつながっています。

創造主の偉大なる光を、それぞれの星が受け止め、覚醒の光、美しさの光、力強さの光、癒しの光として、アルタイル星に流し込んでいきます。

アルタイル星は、それらの光を一つにまとめて、新たな光に統合し、この宇宙の星々へと送っていく働きがあるのです。

しかしながら、おごり高ぶったアルタイル星人によって、アルタイル星から送り出される光が変質してしまいました。

アルタイル星は、ほかの星を支配し自らの下部組織にしようと画策をしていましたので、彼らは闇の力と一つになり、自らの神聖さを失ってしまったのです。

そのためにこの大きな白鳥のエネルギーは十分に機能せず、宇宙の平和と神聖さも薄れてしまいました。

アルタイル星も荒廃し、その星の光は失われ、闇の世界に落ちてしまいました。

大きな白鳥をつかさどる星達も、アルタイル星との通路が閉ざされてしまったために、その起点を失い、お互いがばらばらになってしまいました。

私達は再度、この大きな白鳥の神聖でパワフルな光のエネルギーを取り戻さなければなりません。

それができるのは、地球の物理次元から多くの異なる星の次元に入れる皆さん達だけなのです。

大きな白鳥の光が再びつながった時には、私が前に伝えたように、光の洪水が、地球のみならずこの宇宙にもたらされるでしょう。

私達があなた方を育て、ここまで導いてきたのは、まさにこのためなのです。

この大きな白鳥のエネルギーは、皆さんの太陽系に向かい、まず太陽に入ります。

そして太陽によって、地球にふさわしい強さと質の光に変容されます。

もちろん、この太陽系の中心である太陽のスピリチュアルな世界に、この白鳥の光がもたらされるという事は、大変に重要な意味があります。

現在この太陽系にはアディティーヤ神群がいますが、彼らも、宇宙の偉大な光と切り離されて孤独なのです。

現在では、彼らの事を理解し、そのもととなるベガやデネブなどの大きな白鳥のエネルギーと彼らを繋いでくれる人達がいなくなってしまったからです。

アルタイルが力を失った事で、アルタイルから太陽、そして地球に送られていた太陽神の力は失われてしまいました。

またアディティーヤ神群が持つ「大いなる母性」の力も弱ってしまいました。

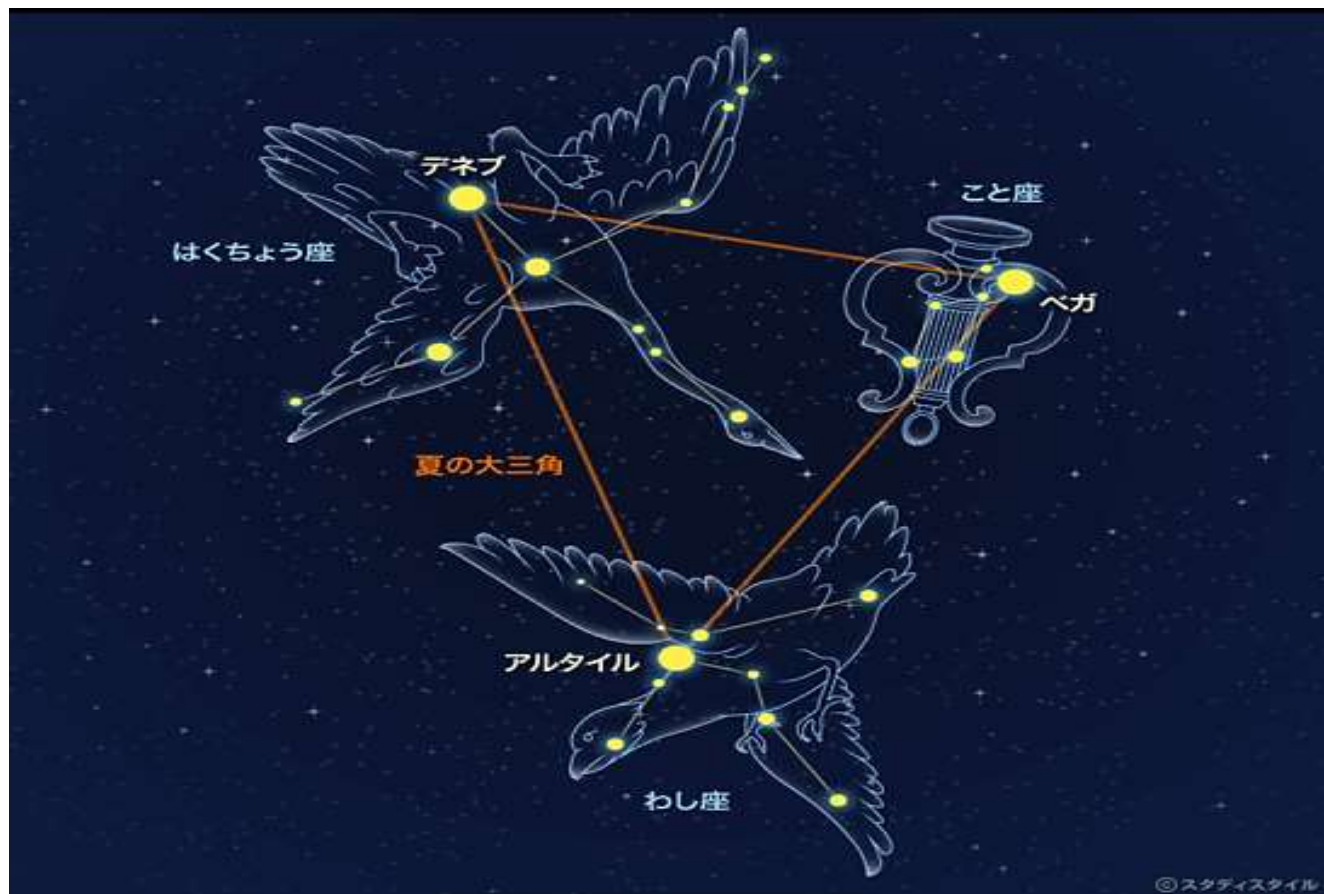
その結果、地球においては、母性や女性性は傷つけられ、男性や男性性が有利となってしまったのです。

この大きな白鳥から送られてくる創造神や星々のエネルギーによって、アディティーヤ神群も再び力を取り戻すでしょう。

そして皆さんが、この太陽から地球に、白鳥のエネルギーをもたらす事ができる大きな光の通路を、繋ぐ事によって、アディティーヤ神群の力は再び強まり、地球に母性としての太陽の愛をもたらす事でしょう。

それが、この地球と宇宙に大きな影響を与えている「闇」の力を統合していくための大切な道筋であると思われます。

今回の仕事では、アルタイル以外の星は、皆さんにとってとても友好的な星ですので、問題はありますが、アルタイル星だけは、注意して騎士団を共につれていってください。



© スタディスタイル

こと座は、楽器のたて琴(こと)の形を表した星座です。
セタ(たなばた)の「おりひめ星」として知られるベガ
はこと座の1等星で、夏の大三角を作る星の1つと
なっています。ひときわ白く輝くベガと、4つの星から
なる平行四辺形が、たて琴の形を作る小さな星座です。

ベガ星は、地球の親星で、マスターベガのもと、ガイア様
サラスバティ様、天照大御神、天のウズメ、大国主、スサノオ等
の神様が住む世界で、多くの神殿や泉などの聖地があります。

スラファト星は、大天使ラジエル様がいらっしゃる星で、
私達に魔法の秘密を教えてください。

地球から行くときはまずこのベガに降り立ちます。

© スタディスタイル

第2章 ベガ 天照大御神の星

PART1 ベガ星 天照大御神の星

2013年の7月、今日の星のツアーは、ベガ星とデネブ星を中心とした六芒星の光の通路を開くための旅の始まりです。

今回の目的は、闇の力の支配を受けるアルタイル星を光の星に戻す事によって、大きな白鳥の六芒星を再び光の六芒星に戻し、創造主の愛と調和の光を地球と宇宙全体に取り戻す事です。

そのために、ベガ星とデネブ星を中心としてすべての星を繋ぎ巨大な光の通路を作ります。この地球も、現在さらに混迷を深め、多くの事件が多発していますが、これらの星が一つになり、光の通路ができる事により、とても大きな光が地球におくられ、地球を取り囲む闇の力も弱まって、人々の心に愛の力が呼び戻される事となるでしょう。

私達がその当時拠点としていた「ガイアの神殿」から最初に向かったのは、事座のベガ星でした。

ベガ星は私達にとっては、最もなじみ深い星で、天照大御神、天のウズメ、大国主、サラスバティ様と私達が行っているアチューメントのマスターの多くがこの星からきていらっしゃいます。

今回の「宇宙の光」の活動に関しても、天照大御神様からの呼びかけで始まった事を思えば、私達の活動を導いてきたのは、まさにこの星のマスター達であるといえます。

このベガ星の特徴は、非常に人間の感性に近い事です。

それは、このベガ星によって、人間が形作られ、ベガの星に似せて地球が創られた事からもうかがえます。

ベガ星へ入るには、ガイアの神殿から、シェンロンにのって光の通路を抜け、ベガ星のクリスタルのゲートに入ります。

ゲートを通ると、そこは風が吹き抜けるような美しい草原です。

野原には花々が咲き乱れ、遠くに山も見えます。

私達がゲートを抜けると、いつも天照大御神様が迎えてくれます。

そして最初に行くところは、私達の魂を癒す事が出来る「天照の泉」です。

この泉は、私達の魂を浄化し、様々なカルマやトラウマ、そして心の傷を癒してくれる場所です。

私達は、ゆっくりと水につかり、心も体もそして魂も静かに癒されていく事を感じます。

この「天照の泉」を出た後に、天照大御神様は深い森を抜け、「生命の源の森」に連れて行ってくれました。

まるで屋久島の森のように、静かに自然が息づいています。

ここから多くの植物や生物達が生まれてくるようなかすかな音がします。

地球の生命の樹とも、深いところでつながっているようです。

まさに惑星の子宮とも呼ぶべき場所です。

私達は、しばらくの間、この森で自分の生命を癒しました。

さてこれから旅の出発点である天照大御神様の神殿へと向かいました。

天照大御神様の神殿は森を抜けた場所にあり、堂々とした立派な神殿です。

神殿の中には、天照大御神様だけでなく、サラスバティ様や天のウズメ様達もそろっています。

天照大御神様が、私達に歓迎の言葉を述べてくれます。

「TAKESHI さん、そして宇宙の光の皆さん。

私達の神殿にお迎えできた事を心から嬉しく思います。

私達は、ずっと皆さんの活動を見守ってきました。

そして皆さんが、私達と共に、この宇宙で活躍していただける事を心から待ち望んでいたのです。

そしてようやくその時が来た事を、私達は嬉しく思います。」

天照様の目に涙がきらりと光ったような気がします。

「天照大御神様、私達を迎えてくださりありがとうございます。

本当は、私達が、地球を出て、ベガ星に来ている事がまだ信じられないのです。

私達の体は、一体どうしてしまったんだろうという感じです。」

天照大御神様達がにこやかにほほ笑んでいます。

「あなた方にとっては信じられない事でしょう。

あなた方をここに連れてきてくれたのは、宇宙船ではなく皆さんのスピリットであるシェンロン達なのです。

あなた方は、人間の肉体として、ここにきているのではなくスピリットとしてきているのです。

皆さんにシェンロン達が現れた事により、皆さんは自分のスピリットを自由に操って、好きな場所に行く事が出来るようになりました。

もちろん今はまだ、自由にコントロールできないかもしれませんが、宇宙の偉大なマスターや創造主達が、皆さんの事をしっかりサポートしてくれるから大丈夫ですよ。」

「しかし天照大御神様、どうして私達がこのような事が突然できるようになったのでしょうか、それも私達のグループのメンバーの多くが、自由に空を飛び、宇宙の星々に行けるようになりました。

私達は、特別の修行などもししていないのに、不思議です。」

私達は、この1か月くらいの間に、メンバーの多くが突然自分の意識を使って自由に移動できるようになった事が信じられないくらい不思議なのです。

天照大御神様は、私達全員を見つめながら言います。

「皆さんがここに来ているという事が、その答えですよ。

皆さんは、天の川銀河の事を知り、天の川銀河のために大切な役目をこれから担っていく事になります。

それは地球に生きている皆さんでなければできない事です。

この事は、天の川銀河の秘密がもっとわかってくれば、皆さんも理解してもらえるでしょう。其のためにも、もっと様々な星に出かけ、多くのマスター達にあって、教えをいただいでください。」

天のウズメ様が、私達の新たな旅立ちのための儀式の準備ができている事を伝えてくれました。

「TAKESHI さん、そして宇宙の光の皆さん。

天照大御神はもちろん、私達も皆さんの事をとても頼もしく思っております。

私達が、地球の人々と共に活動できる最初の日なのです。

私達は皆さんのご無事と成長を祈って特別な儀式をご準備しましたので、ぜひ受け取ってください。」

天のウズメ様と陽気な大国大神様に導かれて、中央に高々と燃え盛る炎の周りに私達は座ります。

天照大御神様達が祝福するかのように、私達の体を、緑の葉がついた木の枝でさすっていきます。

おそらく、私達の不要なエネルギーを拭い去り、炎で燃やしているようです。

天のウズメは落ち着いた声で歌を歌っているようです。

天のウズメの声で、私達は更に深い瞑想へと導かれていきます。

日本で行われている神道の儀式ととても近い感じの儀式です。

そして私達は、一段と高く燃え上がる炎のエネルギーを、自分達のハートの中に受け入れるように言われます。

私達は、自分のハートに熱く燃える炎をしっかりと受け入れていきます。
私達のハートから体全体に熱いパワーが満ち溢れてきます。
これからの旅に向かって力強い意志と勇気が、私達の心に宿ります。
私達はしばらく、天照大御神様達のパワーに酔いしれています。

この儀式の後、天照大御神様が、私達に次の指示を与えてくれます。

「TAKESHI さん、これから皆さんは、アルタイルのマスター達を救出するために、たくさんの仲間達を集めなければなりません。

先ず、へびつかい座のラスアルハゲ星に向かってください。

そこには、この天の川銀河でも有名な医者であるアスクレピオス様が待っています。

彼は傷ついた人々や存在を助け癒す事が出来る方です。

これからのあなた方の旅には欠かせない存在ですので、まず彼の助けを求めなさい。」

私達はベガ星からへびつかい座のラスアルハゲ星へと新たな仲間達を求めて旅立つ事になりました。

第3章 癒しの星 ラスアルハゲ星

PART1 光の通路を使って宇宙を旅する



私達が星から星へと移動するときは、まだ慣れていないのであらかじめ、シェンロンやマスター達によって光の通路と呼ばれるものが作られます。

そしてメンバー全員がその通路の中を通る事で、迷う事なく目的地へと着く事が出来ます。私達全員が、アストラトリップができるようになったといっても、まだまだ上手下手がありますので、安心して旅ができるように、私達は光の通路を作り、その中を移動します。これは、列車の線路のようなもので、私達はその線路の上をシェンロンにのって走っていくのです。

ベガ星から私達はへびつかい座のラスアルハゲ星へと光の通路を作りました。

光の通路の材料はクリスタルのようです。

その頃私の元には、10Kを超えるような巨大なクリスタルが次々と集まってきていました。

それは、クリスタルの中に入っている情報によって、知識を身につけると共に私達の能力を高める事が出来ます。

そしてクリスタルは、スピリットの一部であるシェンロンを元気づけ、光の通路を作る事をサポートするためにも必要なのです。

天照大御神様より、私のハートに光が送られます。

これが、ラスアルハゲ星へと行くための座標や道のりのようです。

私とその光にクリスタルのエネルギーを送り込むと光の通路が、どんどん作られていきます。シェンロンやマスター達も一緒になって光の通路を作りあげています。

やがて、光の通路はラスアルハゲ星へと向かって伸びていきました。

PART2 癒しの星へびつかい座のラスアルハゲ星

へびつかい座のラスアルハゲ星にたどり着いた所、私達の前には、いくつもの道や景色が現れ、そこを辿っていくと、目的地とは異なる場所に出てしまいます。

あるいは道自体が霧や暗闇で隠され、私達のいく手を阻んでいるようです。

どうも、惑星自体がイリージョン（幻影）で守られ、不要な人は入れないようになっているようです。

私達は、この星に入るために、どうしたらよいか考えました。

その時、私達のハートに浮かび上がったのは、へびつかい座のマスターである医師アスクレピオスの「アスクレピオスの杖」のイメージです。

私達は、ベガで天照大御神様からいただいた、ハートに宿る炎の光と共に「アスクレピオスの杖」のイメージを星に送るといくつもの幻影を作り出していたイリージョンはなくなりました。

そして晴れ渡った霧の後ろに現れたのが、まさに長老のような姿をしたアスクレピオスさまでした。

とても優しく静けさが漂うそのお姿は、癒しの天使「ラファエル」を想像させます。

実際お話を伺うと、ラファエル様とのつながりはとても深く共に活動されているようです。

アスクレピオス様がにこやかに笑いながら挨拶をしてくれます。

「TAKESHI さん、宇宙の光の皆さん、お待ちしております。

詳しい事は天照大神様より聞いておりますが、よくこの星までたどり着けましたね。

地球の人々がこの星を訪れるのは、本当に珍しい事です。

それだけ大切な任務をお持ちになっているのですね。」

「アスクレピオス様初めまして、私達は宇宙の光のメンバーです。
今回、天照大御神様より、アルタイル星の問題を解決するために、皆さんに力になってもらうようにと、アスクレピオス様をご紹介しますいただきました。
私達に、何ができるか分かりませんが、よろしくお願いします。」

「なかなか正直者の様ですね。」とアスクレピオス様は笑います。
「もちろん、私で良ければ、いつでも力になってあげましょう。
これから、長い旅が続くでしょうから、まずは私の神殿においで下さい。」
ラスアルハゲ星に降り立つと、静かで優しい波動が満ちています。

美しい野原のような場所を歩いていきます。
樹木のもとには小さな小川も流れているようです。
小鳥達も、優しい声でさえずり、心癒される星です。
私達は、アスクレピオス様の癒しの神殿に案内してもらいました。

周りを数匹の黒猫達がついてきます。
黒猫達は、ふだんは4つ脚で歩いているようですが、アスクレピオス様と共に仕事をするときは人間のような姿に変わるようです。
アスクレピオス様によるとこの星の住人は猫の姿をしているそうです。
この地球でも猫達は癒しの象徴として活躍していますから同じですね。

さてアスクレピオス様の癒しの神殿は、とても美しい柱が立ち並ぶギリシア神殿のようです。
此処には、2本足で立って歩く猫人間(キャット・ピープル)達がたくさん仕事をしています。
彼女達は、猫の姿をした看護婦さんの様で、アスクレピオス様の治療のお手伝いをしているようです。

私達は、まず神殿の中央付近にある温泉のような場所に案内されました。
透き通った癒しのエネルギーが満ち溢れているプールに体を沈めると、心と体が癒されていきます。

私達の身体の細胞ひとつひとつに、柔らかいエネルギーが満ち溢れ、心と体が元気になっていくようです。

ここにはさまざまな騎士団の人達なども、傷を癒しに来るそうです。

そして神殿の奥の部屋には、クリスタルで囲まれた大きな部屋があります。
中央には緑色の大きな石が置いてあり、周りに優しい光をはなっています。
私達は緑色の石の周りに、皆で座りました。
目を閉じて、石の波動の中に入っていくと、とても大きなパワーが、胸の中に入ってきます。
アスクレピオス様が、私達の後ろを回りながら、私達のハートに光を入れて下さっています。

ハートの力を活性化させているようです。

「皆さん、どうか地球で生きている時の皆さんが持っている力にとらわれないでください。地球では、皆さんが持っている能力は、まだ十分に開花していないかもしれませんが、皆さんは、もっと素晴らしいパワーと能力に満ち溢れています。

自分自身を信じ不可能な事はないと考えてください。

そして、共に戦う仲間達を信じる事です。

皆さんの心の中には大きな希望の光がありますから、その光と共に歩んでください。」

このアスクレピオスの癒しの神殿は、私達の体を癒すだけでなく、エネルギーをどんどんパワーアップさせていく働きもあるようです。

私達の仲間も、力強いエネルギーに満ち溢れていきます。

私達はラスアルハゲ星に光の通路を開き、アスクレピオス様と仲良くなった後、再びベガに戻りました。

天照大御神様が、神殿で待っています。

「皆さん、ラスアルハゲ星には無事に行けたようですね。

ここから旅立つときよりも、皆さんの心が光り輝いているのが私にはわかります。

大切な仲間を得るごとに、皆さんの心の輝きは増えていくものです。

自分達の可能性を信じて、さらに新しい仲間達を見つけてください。」

「天照大御神様、ありがとうございます。

アスクレピオス様は本当に素晴らしい方でした。

私達も皆さんの仲間になる事が出来てうれしく思います。

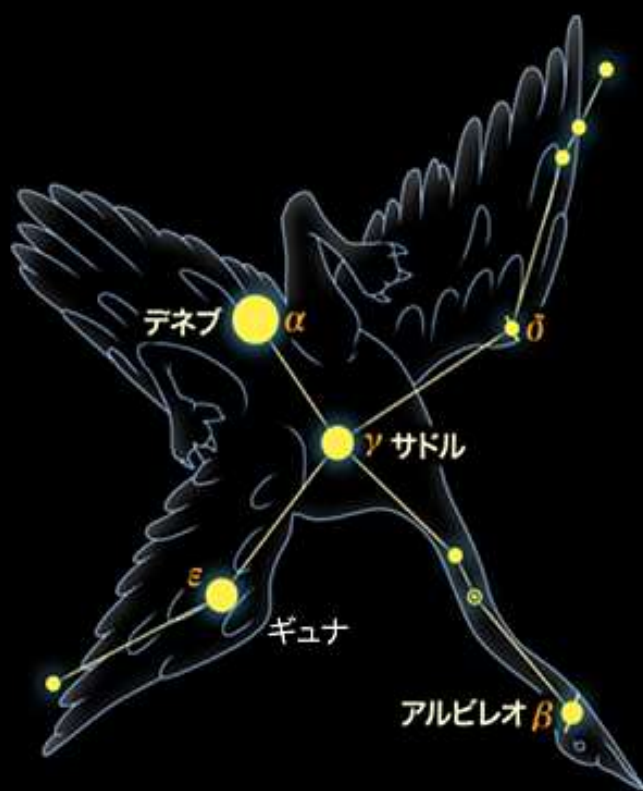
それでは、次はどの星に行ったらよいですか。」

「次に行く白鳥座のデネブ星は、皆さんにとってはとても大切な星です。

皆さんの中には、フェアリーの魂を持っている人もいますから、きっと故郷に帰ったような気がしますよ。」

私達は、シェンロン達にお願いして白鳥座のデネブ星に光の通路を開きました。

第4章 白鳥座やペガサス座の仲間



はくちょう座は、天の川にそって大きな翼を広げた白鳥の姿を表した星座です。

夏の夜空でひととき目立つ星座で、1等星のデネブをはじめ、アルビレオなどの明るい星が大きな十字の形を作っています。

デネブは夏の大きな三角を作る星の1つとなっています。ギリシャ神話では、大神ゼウスが美しいスパルタの王妃レダを気に入り、ひそかに会いに行くために白鳥に姿を変えたという物語がはくちょう座の由来の1つとされています。

デネブは、フェアリーたちの世界で妖精がマスターです。サドルは海の中の世界、ギユナは地底都市があります。アルビレオは、隕石の衝突によって、一度荒廃しましたが、今回の事で復活しました。ペルーやアステカ・インカの文明に深く関係するマスター達がいる星です

© スタディスタイル

PART1 フェアリーワールド白鳥座のデネブ星

ベガ星から白鳥座のデネブ星に光の通路を開き、私達はシェンロンに乗ってデネブ星へと向かいました。

デネブ星は、まるでアルプスの少女ハイジが出てきそうな美しい高原の村の様です。周りには花々が咲き乱れ、遠くには美しい山々が連なり、静かで美しく荘厳な世界です。歩いていくと、半透明の姿の女性や小さくてかわいいフェアリー達も見えてきます。花の影からは、ホビット達ものぞいているようです。

まさにここはフェアリーランドです。

葵さんや遥さんはフェアリー達が大好きです。

すごく興奮して、初めて見るフェアリー達をまじまじと観察しています。

デネブ星は、ディズニー映画に出てきそうな、輝くばかりの美しさと優しさに満ち溢れた世界です。

私達の前に、まるでピーターパンの物語に出てくるようなティンカーベルのような妖精が現れました。

「私達はデネブのフェアリーです、皆さんの事をお待ちしておりました。

どうぞ私達と共においでください。」

フェアリー達が、羽をはばたかせると、美しい金粉が舞い踊ります。

突然現れたフェアリーが私達の心に話しかけてきた事で、メンバー達も喜びと驚きの声を上げています。

メンバーの中には、この星に来ただけで、涙を流し始める人達もいます。

きっと自分自身の魂がこの星と深い関係を持っている事が分かったようです。

確かに、私達のメンバーのスピリットは純粹で優しいので、フェアリーのスピリットを持っている人達も多いと思われます。

私達は、フェアリー達に導かれて、美しい神殿に入りました。

決して豪華ではありませんが、荘厳な樹木や美しい花々に彩られた石造りの神殿です。

私達は、石段を上り、両側を樹木で囲まれた通路を歩んでいきます。

樹木から垂れ下がった枝に美しい花が咲いていて、私達を祝福しています。

私達の心を安らがせる心地よい香りは、通路の両脇に植えられた花々から香ってくるようです。

私達が通路を抜けて広間につくと、フェアリーの女神が気品あふれる姿で立っています。

フェアリーの女神が、私達を見て微笑みかけます。

「地球の人達よ、私達のフェアワールドにようこそ、

私は、この星を司る女神アルターニャです。

多くのフェアリーやホビット、そして精霊達があなた方を迎えています。」

女神の言葉に、多くのフェアリー達が羽をはばたかせて喜びの気持ちを表しています。

私達のメンバーである葵さんが前に進み出て、私達を代表してあいさつをします。

「フェアリーの女神さま、私達をこんな素晴らしい星へご招待して下さりありがとうございます。」

私達はここに来ただけでも、胸がいっぱいで感動の涙が流れて止まらないのです。

女神さまの事も、懐かしくて仕方がないのです。」

女神アルターニャは、葵さんのほほから涙を優しく拭いています。

他のメンバー達も数人が同じように涙を流しています。

女神アルターニャはその様子を見て、まるでわが子を見るかのようにうなずいています。

「私達は、天の川銀河の多くの星々に、この星からフェアリーやホビット達を送り出しています。

私達は、星の植物や動物達を生みだし育てるために、新しい星々へ降り立つのです。もちろん地球にも、私達の仲間はたくさん降り立っています。

あなた方は、このフェアリーの星から地球に使わされた大切なフェアリー達なのです。

地球の古い時代には、フェアリー達は地上にたくさん満ち溢れ、素晴らしい世界を作っていました。

その頃は、人もフェアリーも共に協力し合って仲良く暮らしていたのです。

しかし、文明が発達していくと、フェアリー達の姿が見えない人が増えてきました。

フェアリー達は、やがて森の奥深くに追いやられ、次第に生きる場所を失っていったのです。

フェアリー達は、地球で生き残るために、純粋な人間の魂の一部となって、人間として生まれてくる事を選択しました。

それは決して簡単な事ではありませんが、フェアリー達は、地球と地球に生きる植物や動物達を守るために、そうするしかなかったのです。

そして、あなた方が、まさにフェアリーの魂をもった人々なのです。」

葵さんをはじめ、多くのメンバー達が涙を流しています。

きっと彼女達の魂は、この星に戻る事を長い間、待ち望んでいたのでしょう。

フェアリーの女神アルターニャは、しばらく皆さんの事を抱きしめながら慰めていました。

フェアリーの魂を持つ人は、人間の社会でも器用に生きていく事が難しく、耐え難い苦勞をしている人もたくさんいます。

人として生きてきたフェアリー達の苦しみと悲しみが、どんどん溢れ出してくれています。

しばらくしてメンバー達が落ち着くと、女神アルターニャは、私達を神殿の奥庭へと案内してくれました。

そこには、屋久島にある「聖老人」と呼ばれる縄文杉のような古くてどっしりとした樹木が立っていました。

「この木はこの惑星の命と繋がっています。

私達一人一人はこの惑星の命を分かち合っているのです。

どうかあなた方も、この惑星の命と一つになってください」

と女神アルターニャはおっしゃいました。

私達は、頭を木の方に向け、木を取り囲むようにして、横になります。

私達とその木の周りを多くのフェアリー達が大きく取り囲み、女神の祈りと共に祈り、歌い、踊り始めます。

まるで映画の「アバター」のような世界です。

私達の体も揺れ、私達の中に波のように惑星の意識が入ってきます。

私達と惑星は一つ、私達と惑星はつながり、共に満ち溢れる

私達は、惑星の子供となり光となる

惑星は、私達の中に満ち溢れ、更なる輝きを生みだす。

輝きは、仲間達と共に分かち合われ、大きな愛となる

私達は目を閉じると、この惑星の意識とひとつになります。

惑星の力強い大地、全ての物を生み育てる大地のパワーが私達の意識の中にどっしりと根ざします。

そして、大地から生み出される植物達。

私達の体から、植物の芽が伸びてきて葉を茂らせ美しい花が咲き乱れます。

そして美しい花の周りには、蜂や蝶が飛び交い、昆虫達が動き回ります。

植物の花から、植物の種子が綿毛のように飛び立ち、風に乗って、飛び立ちます。

私達の意識も、綿毛と共にふわふわと風に乗って旅していきます。

野原を超え、小川を超え、たくさんの昆虫や動物達と出会いながら、私達の意識は旅します。

そして、綿毛は再び大地に落ち、大地に抱かれながら眠りにつくのです。

私達は、しばらく眠っていたようです。

眼を覚ますと女神アルターニャ達がにこやかにほほ笑んでいます。

私達は、女神アルターニャによって、惑星意識と一つになるイニシエーションを受け取りました。

そして女神アルターニャは、私達の心に、愛と美を見失わないように、光も送ってくれます。

「私達の魂の内側にある美しさが、この地球の美を想像します。

皆さんの心の中にある世界が、この世界を創造するのです。

皆さんの心の中にある美しい世界を失わないでください」

と私達に大切なメッセージをいただきました。

女神アルターニャとお別れの時がやってきました。

女神アルターニャは、まじめな顔で私達に告げます。

「皆さん次は、ペガサス座のエニフ星に行ってください。

そこには傷ついたペガサスがいますので、アスクレピオス様と一緒に、そのペガサスを助けていただけませんか。お願いいたします。

そして、またここに戻ってきてくださいね。」



PART2 ペガサス騎士団との出会い

私達は、女神アルターニャやフェアリー達に別れを告げると、女神アルターニャの指示によって、ペガサス座のエニフ星までの光の通路を作ります。

ペガサス座は、名前通りペガサス達の星で、いつも私達の活動を守護してくれているペガサス騎士団の星のひとつです。

ペガサス騎士団とは、今回の旅が始まる前に、メンバーの一人と行っ達ユーメントの時に出会いました。

それは、私達がまだ十分に星々の間を行き来する事が出来なかった頃、私達の活動を助ける為に、行ってもらいたいところがあるといわれ、つれてこられたところがペガサス座でした。

私達はまだ、宇宙の星々といえはペガ星とプレアディス星団しか行った事がなく、この天の川銀河に、私達と同じように人々が存在しているという事さえもまだ十分に確信できていない頃でしたので、何が起こるか半信半疑でペガサス座に向かいました。

私達が、最初に着いたのは、ペガサス座の星ではなくその近くの空間のようです。私達を導いてくれたマスターは、私達がここに到着すると大切な話をしてくれました。

「TAKESHI さん、この宇宙は素晴らしいものですが、同時に多くの危険もあります。特に皆さんは、自分のスピリットをシェンロンに託して移動しています。皆さんはまだ、この宇宙の法則や星々の事も全く知りませんので、皆さんを陰ながら守護する存在が必要です。皆さんは重要な任務を持って活動していますので、天の川銀河でも、最も優秀なペガサス騎士団に皆さんを守って頂く事にしました。」

私の前に、一頭の大きな白馬が現れます。
もちろん背中には美しく屈強な羽がついています。
「私は、ペガサス騎士団のアトスです。
私のグループは、これから皆さんを守護する為に、皆さんと共に行動いたしますのでよろしくお願いします。」

私こそ、この話に驚きました。
「いえ、こちらこそよろしくお願いします。
私達こそ、宇宙の事を何も知らずに、ただ勢いだけで星々を回っています。
マスターが言うように、星々の事もこの宇宙の事も何も知らないのです。
ましてや、どのような危険性があるかなど、全く分かりません。
どうかよろしくお願いします。」

ペガサス騎士団のアトスは、私を背中に乗せて、ペガサス騎士団の聖地があるシェアト星へ案内してくれました。
シェアト星は美しい草原が広がる星で、たくさんの若いペガサス達が、空を飛んだり大地を駆け巡っています。

「TAKESHI さん、ここはペガサス騎士団に入った若者達が教育を受ける星です。
ペガサス騎士団は、この星を神聖な星と呼んでいます。
私達の「契りの泉」と呼ばれる場所にご案内しましょう。」

ペガサス騎士団のアトスは、私達を背中に乗せたまま、小高い山の本々の間をくぐり抜け、小さな泉へと着きました。
泉の中央には、大きなクリスタルが大地から突き出し、その周りから、どんどん水が沸き起こっています。
このクリスタルによって泉の水が清められて、とても神聖でパワフルな波動に満ちています。
「さあ、TAKESHI さん達もこの泉に入ってください。」

私達が泉の中に入ると、胸あたりまで水の中に沈みます。

ペガサス達にしてみれば、足の付け根あたりまでの深さですが、私達は小さいので、胸のあたりまで水につかります。

ペガサス騎士団のアトスは、自分の羽で器用に水をすくい、私の体にやさしく水をかけてくれます。

「この水は、私達ペガサス騎士団にとっては、神聖な水です。

私達が恐れを捨てて正義のために戦う事が出来るように、私達に勇気とパワーをくれるのです。

あなたはこれから、地球と天の川銀河のために働く事になるでしょう。

あなたは、私達も及ばないくらいに素晴らしいパワーを持っています。

どうかそのパワーを目覚めさせてください。」

ペガサス騎士団のアトスは、祈りの言葉を唱えるように何度も何度も、私の体に水をかけます。

すると、私の心から力強いパワーが次第に生まれてきます。

「アトス様、本当にありがとうございます。

私は一人の地球人ですが、皆さんと共に活動できる事を心から喜びとしております。

そして、私は今、大きな自信と勇気を感じています。」

ペガサス騎士団のアトスと私の「神聖なる契り」は終了したようです。

私達は、白馬にまたがって地球へと戻ってきました。

PART2 エニフ星の傷ついたペガサス

それでは話をペガサス騎士団との出会いからエニフ星へと戻しましょう。

ペガサス座のエニフ星は、今回、問題となっているわし座のアルタイル星のすぐ横に位置します。

天照大御神様の話によると、闇の力の支配により荒廃させられたアルタイル星と同様に、このエニフ星にも闇のエネルギーが入ってきているようです。

しかし、この星の偉大なる惑星意識であるペガサスが闇の力を自分の体で受け止め、必死に惑星を守っているとの事です。

最初にエニフ星についたときは、深い渓谷の様子が映りました。

それは映画の「ロード・オブ・ザ・リング」で出てくるような、エルフ達の隠れ谷によく似ています。

谷の崖沿いに、映画と同じようにエルフ達の宮殿がある事に、私達は驚きました。

空にはペガサスが飛んでいる事から、エルフ達とペガサス達が共生している星かもしれません。

私達は、エルフの神殿に案内されました。

エルフ達は「ロード・オブ・ザ・リング」の映画と同じように、耳がとがりスマートですが屈強な体型をしています。

女性達は美しく、しなやかな体を美しい布で隠しています。

もしかしたら、私達の心の中にあるエルフのイメージを再現して見せてくれているのかもしれない。

神殿の中の階段をいくつもわたっていくと、見晴らしがよい展望台のようなところにつきます。

そこには、赤い布で作られた緩やかなドレスを着たエルフの女王が、私達を待っています。

「あなたが TAKESHI さんですね。

あなたの事は、ペガサス騎士団のアトス様からも良くお聞きしています。

天の川銀河の危機を救うために、地球から派遣された方だと聞いております。

どうかこれからよろしくお願いします。」

私は、どうも皆さんから大きな期待をかけられているようです。

「エルフの女神さま、初めまして、これからよろしくお願いします。

私はこの宇宙の事を何も知らない人間ですから、皆さんのお役に立てるかわかりませんが、出来る限りの事はしたいと思っています。」

エルフの女神は、自信なさそうに答える私を見て笑っています。

「あなたは本当に正直な方ですね、

フェアリーの星の女神アルターニャもそういっていましたよ。

でも、あなたの力が少しずつ目覚めてきますから心配はいりませんよ。」

この展望台から見る光景はとても美しいものです。

多くのペガサス達が空を飛び交っています。

エルフ達も大きな鳥の上に乗ってペガサス達と共に飛んでいます。

「この美しい星に何が起きているのだろう」私は独り言を言います。

その言葉を聞いたエルフの女神もうなずきます。

「本当に、この星は美しい星でした。

アルタイル星が闇の力に支配されるまでは、全てが完全でした。

しかし、アルタイル星の人々が、自分達の欲望に負け、闇の力に犯されてしまった事で、この星にも闇の力が入り込んできたのです。

今はまだ、この星を守護するペガサスが、闇の力を必死で食い止めています、そのペガサスが闇に飲み込まれてしまったら、この星も闇の力によって支配されてしまいます。そうすると、今私達が見ているこの美しい光景もすべて失われてしまうでしょう。どうか、この星を救ってください。」
女神の眼から涙が零れ落ちていきます。

展望台を出て、女神は、谷底で眠るヒュードラと呼ばれるペガサスのもとに、私達を案内してくれました。
エルフの神殿の階段をいくつも降りていくと、ちょうど谷底にあたるような場所にいくつもかがり火がたかれています。

かがり火の中には、巨大なペガサスが一頭横になっていますが、本来は真っ白いペガサスのはずですが、まるでシマウマのように、体中が黒い闇の力でまだら模様になっています。全身が衰弱して呼吸も弱り、体全身が冷え切っています。
周りにはたくさんエルフ達が集まり、体を温めてあげたり祈りをささげています。

エルフの女神がヒュードラの体をさするようにして言います。
「もし、ヒュードラの体が、全て闇の力によって黒く染まってしまえば、ヒュードラは息絶えてしまう事でしょう。
そうすると、この闇の力は、私達の星を覆います。
私達は全力でこのヒュードラを守っているのですが、力が及びません。」

私はペガサス騎士団のアトスに来てもらいどうしたらよいか尋ねる事にしました。
「このヒュードラ様は、私達にとっても大切な方です。
何としてでも助けなければなりません。
最初に、アスクレピオス様をここに呼んでいただけませんか、そして闇のエネルギーをはらう力を持ったマスターにも手伝ってもらえると助かります。」

私は、天照大御神が、まずアスクレピオス様のもとに、私達を派遣した理由が分かりました。これからこのような状況をたくさん迎える事になるために、アスクレピオス様の助けが必要となるのです。
でもどうしたら、アスクレピオス様を呼ぶ事が出来るのでしょうか、私にはわかりません。
「TAKESHI さん、心の中でアスクレピオス様に呼びかけてください、
このような状況である事を心の中で伝えるのです。」
ペガサス騎士団のアトスが、私の心を見抜くように伝えてくれます。

私は心の中で、私が見ている光景を強く思い浮かべ、アスクレピオス様の名前を何回も呼びます。

すると、私達前に光が輝き、そこからアスクレピオス様がすっと出てこられました。
私達は突然の事に、腰を抜かすぐらい驚いています。

「何も驚く事はなかろう。

TAKESHI さん達の活動を手助けする約束を私達はしたので、あなたが私の事を呼べば、私はすぐにあなたのもとに現れる事になっているのですよ。

これも宇宙の法則の一つです。

心と心をつなぎ合った者同士は、必要な時は、瞬時にその者の元に助けに行く事になっています。

いつでも、私の助けが必要な時は、私の名前を呼んでください。」

アスクレピオス様はそういうとすぐにヒュードラさまの治療にかかりました。

ヒュードラ様のエネルギー状態を手で触りながら綿密に調べています。

そして、持ってきた薬草のようなものをヒュードラ様の体に擦りこんだり口から飲ませています。

「体の中に入った闇のエネルギーはこれで少しずつ抜けていくと思うが、常にこのエネルギーがヒュードラを襲っているようです。

誰か、この闇のエネルギーからヒュードラを防御できる者がいるとよいのですが。」

私は、天照大御神様の名前を呼びながら、今の状況を伝え、ヒュードラ様を闇のエネルギーから守ってくれるマスターがないか尋ねました。

「TAKESHI さん、ヒュードラの元まできちんとたどり着く事が出来ましたね、よかったです。そうですね、ヒュードラを闇のエネルギーから守るには素戔嗚尊が適切かもしれませんね、彼をすぐに送ります。」

天照大御神様の言葉が終わると同時に、私達の前に光が現れ、そこから素戔嗚尊様が現れました。

彼は、ヒュードラの様子を調べると、アルタイル星の方向に向かって、剣を抜き振り回しています。

まるでアルタイル星から来ているエネルギーを切り刻むような仕草です。

そして、彼の剣から光があふれてくると、ヒュードラとアルタイル星の間に大きな光の壁のようなものが出来ました。

そしてその光の壁は更に伸びてヒュードラを包んでいきます。

アスクレピオス様は、その仕事を見ながら満足げにうなずいています。

「これでヒュードラも少しは守られるでしょう。

しかし、アルタイルの闇の力をなくさない事には問題は解決しません。

私も度々ここにきて様子を見に来ますので、皆さんでヒュードラに癒しのエネルギーを送ってあげてください。

それから TAKESHI さん、後で私のところに来てください。」

そういうとアスクレピオス様はずっと光の中に消えていきました。

素戔鳴尊様もヒュードラ様の様子をしばらく見守ってから光の中に消えていきました。

私達は、しばらくエルフ達と共に、ヒュードラ様に癒しのエネルギーを送っています。

しばらくするとヒュードラ様は、癒しの効果が出てきたようです、静かに眠りに入りました。

エルフの女神が、私達に感謝の言葉を述べます。

「皆さんのおかげで、私達にも希望が芽生えてきました。

本当にありがとうございます。

アルタイル星の闇の力を攻略するときは、私達も全力でお手伝いしますので、どうかよろしくお願いします。」

私達は、エニフ星の女神やこの星のペガサス達と心をつないだ後、エニフ星を旅立ち、アスクレピオス様のもとに戻る事にしました。

第5章 ヘーラクレース座のアルケイデース

PART1 ヘーラクレース座のラスアルゲティの秘密

私達はヒュードラ様の元から、再び光の通路を通してアスクレピオス様の元へと戻ります。今回は、前回のように幻影はなくすぐにアスクレピオス様の癒しの神殿へと入る事が出来ました。

アスクレピオス様がにこやかに私達を招き入れてくれます。

「今回はごくろうさまでした。

私達と連絡を取る方法を覚えてみたいだね。

私達は、完全な肉体だけの存在ではなくスピリットで動いているので、心がつながっている人のところにはすぐにいけるのです。

これから、皆さんにもたくさんの仲間が増えてきますが、全ての仲間が何時も皆さんと一緒に行動できるわけではありません。

しかし、あなたが、私達の事を思い浮かべ、名前を呼んでくれたら、私達はすぐに駆けつける事が出来ます。

私達は、スピリット体ですので、同時に異なる場所にも存在できるのでいつでも呼んでください。」

私達は、旅をしながら、宇宙の秘密を一つずつ学んでいける事がとても楽しくなりました。そしていろんな仲間が増えていく事も。

「アスクレピオス様、本当にいろんな事を教えていただきありがとうございます。

私達にとっては、驚くような事ばかりが起きて、とっても興奮しています。」

アスクレピオス様は、私の言葉を聴くと、にっこりと笑います。

「それでは、もっと皆さんを興奮させる所にご案内しましょう。一緒に来てください。」

そう言ってアスクレピオス様は、すぐ近くにあるヘーラクレース座のラスアルゲティ星へと光りの通路を作ります。

「さあ、ここには、私の昔からの友達がいるはずです。

うまくいけば、君達の力強い味方になってくれるはずだから、ぜひ訪ねてごらん下さい。」

私は、アスクレピオス様に尋ねます。

「私達は、この星に行って誰を尋ねたらよいのですか、教えてください。」

アスクレピオス様は、私の問いに笑って答えます。

「その誰かを探すのが、楽しみですよ。」

私達は、言われるがまま、光の通路を通ってラスアルゲティ星へと向かいます。

しばらくして、私達はラスアルゲティ星につきましたが、何かどんよりとしてすっきりしない星です。

太陽の光がなく、重たい雲が立ち込めたどんよりとした星です。

私達がこの星についても、誰も迎えに来ませんし、誰かがいる気配もしません。

私達は、来るべきところを間違えたのかと思い不安になりますが、周りを調べてみます。

美緒さんが不安そうな声で言います。

「この星暗いよね、なんか気持ち悪くないですか。」

確かに、今迄の星のように歓迎モードではありませんが、アスクレピオス様の友達を探し出す必要があります。

しばらく歩くと、山肌に何か扉に閉ざされた洞窟のようなものがあります。

他には、人工的な建物も見えませんが、とりあえずこの中に人がいないか、扉を叩いてみる事にしました。

扉をたたくと、中で重たい鎖を引きずるような音がして、大きな男が扉を開けます。

大きな男は、私達を胡散臭い目でみます。

おそらく、アスクレピオス様から連絡が入っていたと思われますが、何か私達を疑うような目で見ています。

彼は、首を部屋の中に向け、入ってもいいぞ、というそぶりをします。

私達は全員で入ると窮屈なので、私と葵さん、美緒さんの3人で中にはいり、後のメンバーは外で待ってもらう事にしました。

美緒さんと葵さんが目を見合わせ「ちょっと、やばい！」という顔をしています。

私は、その大男に自分達に自己紹介をします。

「私は地球から来た TAKESHI と宇宙の光のメンバーです。」

アスクレピオス様から、この星を尋ねるように言われましたが、アスクレピオス様から何かお聞きになっていませんか、

もしかしたら私達は人違いをしているのでしょうか。」

大男は無然とした表情で「話を聞いている」という仕草をしました。

「それは良かったです。」

其れであなたは、どなたでしょうか、私達に名前を教えてくださいませんか。」

大男は、私の方を見てつぶやきますが、最初の「アル」という言葉がきこえて聞こえたくらいで名前がしっかりと聞き取れません。

私はどうしたものかと考えていたら、美緒さんが、私につぶやきます。

「ここはヘーラクレース座だから、もしかしたら、、、」

私は美緒さんの言葉を聴いてピンとききました。

「あなたは、あの有名なヘーラクレース様ですね。

ギリシア時代の最大の勇者であるあなたの功績は今でも私達に伝えられています。

あなたがたどった冒険の旅は、天の川銀河の星座としても残っていますから、誰でもあなたの事を知っているのです。

なんて素晴らしいのでしょうか、ヘーラクレース様にあえて、私達はとてもうれしく思います。」

私達は、ヘーラクレース様に会えた喜びではしゃいでいます。

しかし、ヘーラクレース様は私達の喜びとは反対に、迷惑そうな沈んだ顔をしています。

これでは、私達の仲間になってくれそうな気配が全くしません。

「ヘーラクレース様、一体あなたはどのようにこのような場所に閉じこもっているのですか。この宇宙には、きっとあなたをしのぐ勇者はいないと思うのですが。」

ヘーラクレース様は吐き捨てるように答えます。

「私にはこの場所が似合っているからここにいるまでだ。

それに私は、あなた方が言うように勇者でもなんでもない、ただの老いぼれだ。」

ヘーラクレース様の機嫌をどうやら損ねたようです、私達はこの場を退散したほうが良いようです。

私達は、ヘーラクレース様にお詫びの言葉をいって逃げ出すようにその場を離れました。

私達は、ヘーラクレース様と仲良くなれなかった事に、大きな挫折感を感じて、地球に戻る事にしました。

PART2 ヘーラクレースではなくアルケイデース

私はヘーラクレース様の態度がとても気になっています。

そして、彼が名前を尋ねられたとき「アル」という言葉を発した事も気になります。

私は、ヘーラクレース様の事を詳しく調べる事にしました。

そして大切な事に気づいたのです。

それは、オリンポスの大神ゼウスとペルセウスの孫に当たるアルクメーネーの子供として生まれたヘーラクレース様の本名は「アルケイデース」という名前だったのです。
アルケイデースの事を知ったゼウスの妻であるヘーラーが、自分の夫と他の女性との間に生まれた子供を見逃す訳がありません。
勇者として名高いアルケイデースは、ヘーラーによって狂気を吹き込まれ、自分の愛する子供達を火の中に投げ込み殺してしまったのです。

アルケイデースは、深い悲しみに捕らわれ、家を捨てて、自分の罪をあがなうために、ミュケーナイ王エウリュステウスに仕え、有名な 12 の偉業を果たす事になりました。
しかし、アルケイデースは、デルポイの巫女から「ヘーラーの栄光」という意味を持つ「ヘーラクレース」という名前と呼ばれる事になりました。

しかし、ヘーラーこそが、ヘーラクレースの全ての災いを作った張本人でもあるので、アルケイデースにとっては、ヘーラクレースと呼ばれる事自体が苦痛であり、彼を封印するための呪いの言葉となったのです。
私達は、その事が分かったと、すぐにラスアルゲティ星に戻り、アルケイデースの洞窟へと向かいました。

私達が再び、洞窟を尋ねると、彼は失望した顔をして、私達を部屋の中に招きいれます。
私は思い切って彼に言います。
「あなたは、アルケイデースですね。」

アルケイデースは、その言葉を聴くと、顔をあげ喜びの表情を見せます。
「そうです。私は、アルケイデースです。
誰かがアルケイデースと呼んでくれる事で、ヘーラーの呪縛が解き放たれ、私は自由になるのです。
TAKESHI さん、本当にありがとうございます。
あなたは、私をヘーラーの呪縛から解き放ってくださいました。
これで、私は再びアルケイデースとして生きていく事が出来ます。
どうか、あなたのお供をさせてください。」

アルケイデースは、私達に今迄の苦悩を話してくれました。
彼は英雄と称されながらも、危険な冒険を幾度も命じられました。
彼はたとえ、英雄と称されようとも、自分がヘーラクレースと呼ばれている間は、憎んでも憎み切れないヘーラーの呪縛に捕らわれてしまいます。

そして、自分の正気が失われ、子供達を日の中に投げ込んだ幻想に悩まされる事になるのです。

彼は、その思いから逃れるために、自分の死を顧みず、無謀な戦いに何度も駆り出されていたのです。

アルケイデースは、戦いが終わって死を迎え、神々の座に迎え入れられたとしても、ヘーラクレースと呼ばれているうちは、自らをヘーラーの呪縛から解き放つ事が出来ず、自分を罪人として責めさいなみ続けていたのです。

その為に、あのような薄暗い洞窟の中で、自分を罪人として、誰の眼にも触れないように閉じ込め続けている事しかできなかったのです。

私達は、アルケイデースが喜びと共に大きな力と勇気に満ち溢れていく様子が分かります。アルケイデースは、自分の大切な剣をもち、足についていた鎖を剣で粉々に砕きました。そして洞窟の部屋の扉を、強靱な剣さばきで一撃のもとに弾き飛ばします。アルケイデースは、私を肩に担ぐように持ち上げ、洞窟から外に出ていきます。

私は、その力強いパワーに圧倒され涙が出てきそうになります。

私は、私達の仲間となっているさそり座騎士団、ペガサス騎士団、アスクレピオス様やベガの素戔鳴尊達をここに呼びだします。そして大きな声で叫びます。

「今、アルケイデースは、ヘーラーの呪縛を解き放たれ真の勇者となった。これから、アルケイデースはヘーラクレースの名前をすてアルケイデースとして生きる事になった。誰一人として、彼をヘーラクレースと呼んではいけない。真の勇者アルケイデースとして、私達の仲間を迎えよう。」

集った仲間達が大きな歓声を上げ、こぶしを振ります。アルケイデースは、私を肩に担いだまま片手で大きな剣を空に向かって突き上げます。剣の先から稲光のような光空に向かって放たれます。

するとどんよりとしていた空から、雲がなくなりまぶしいばかりの太陽が輝き始めました。荒涼としていた星の風景も、風が吹き抜ける美しい野原や樹木が生い茂る山々に変わります。

私達はここに力強い仲間を得る事になりました。アルケイデースは、それからというもの常に私のそばにいて私を守り、様々な叡智で私を助けてくれる事になりました。それから後で知ったのですが、アルケイデースの働きは、地球上にとどまるのではなく、今の私達のように、宇宙の星々を旅しながら行った偉業もたくさんあるようです。

第6章 北極星の創造主と大天使ラジエル

PART1 ベガ星 マスターベガの登場

私達は、再度大きな白鳥の秩序を取り戻すために、今日もベガ星に向かいました。ベガ星で、天照大御神様の神殿に向かったところ、私達を待っていたのは天照大御神様ではなく天照様の意識を抱合する大きなマスターであり、ベガ星のすべてを守るという女性のマスターの意識でした。

彼女はベガ星の惑星意識に近い母性的なエネルギーを持つ存在です。

そのマスター・オブ・ベガは、自分がベガの星から動けないために、天照大御神様の意識を作り出し、天照大御神様をとおして私達を導きサポートしていたという事です。

マスターベガはとても大きな存在ですので、彼女の声は私達の頭の中に直接響いてきます。

「地球から来てくれた偉大なる旅人達よ、皆さんにお会いできた事をとてもうれしく思います。

私達は、皆さんに、この天の川銀河のとても大切な仕事をお願いする事にしました。

あなた方はきっと、この仕事を成し遂げ、大きく成長してくれる事でしょう。」

ベガ星のマスターは、私達にさまざまな事を教えてくれました。

ベガ星から地球に来ているマスター達は、ベガの自然を神格化したもので、海であればサラスバティ様、太陽であれば天照大御神、月であれば月読の尊、火であれば素戔鳴尊、自然の実りであれば大国主様というようにベガ星の自然界の波動を神格化してこの地球に伝え、地球とベガ星の波動を同調させていたという事も伝えていただきました。

そして人間が生み出された目的は、物理次元の制約が多い地球で、自らの目的の為に苦労しながら生きていく事によってその魂を飛躍的に成長させる為のものである事。

地球特有の物理次元を持つ事によって、人は様々な次元の存在や星の人達と出会い、多くの事を学ぶ事ができるという事。

この地球の人類は、多くの星の人達の共通の子孫として、星の人達がともに育む存在であるために、多くの星の女神やマスター達がサポートに来ている事なども教えていただきました。

私達は、マスターベガからの大切なメッセージをたくさんいただいた後に、マスターベガからとても大切な光をいただき、天照大御神様達と共に次の目的地に向かってベガ星を出発しました。

PART2 北極星の守護者 小熊座のコカブ星

今回の目的は、創造主が待っていらっしゃると思われる小熊座のポラリス（北極星）へと向かう事です。

さすがに北極星までは遠く、次元もかなり異なるので時間がかかりますので、途中で小熊座のコカブ星に入りました。

このコカブ星は、北極星の入り口であり、北極星に入るための大切なゲートの様です。

最初は暗くて、周りの状況が見えなかったのですが、マスターベガに頂いたコインをかざすと朝焼けのような美しい光景に変わり、コカブ星の容姿が見えてきました。

そして、そこに現れたのは、テディベアのような存在、さすが小熊座です。

このコカブ星のマスターはとてもユニークな方で、コカブ星の中に宇宙の図書館があるらしく、私達が住んでいる日本の事もよくご存知でした。



私達が日本から来たとわかると、新聞紙で折った紙の兜（昔子供の日に作ってもらった）をかぶって見せたり、自分の名前を、小熊に乗った金太郎を真似して、小熊座の金太郎と呼んだりしていました。

皆さん爆笑でした。

宇宙にもこんな茶目っ気のあるマスターがいるなんて驚きでした。

そして金太郎マスターは、私達を叡智の図書館に連れて行ってくださり、自分にとって必要な情報を持っていくように伝えてくれました。

私達は、初めて出会う宇宙の図書館に、たじろいでいます。

すると小熊座の金太郎さんは、図書館の使い方を教えてくれました。

「この宇宙には、いくつもの星に、宇宙の大切な情報や星々の歴史や特性などが書かれている図書館があるんだよ。

そこに行くと自分が欲しい情報が手に入るんだ。

使い方は簡単さ、たくさんある本棚から、その情報が書かれている本を探してもいいけど、僕だったらこうするね。」

小熊座の金太郎さんは、目の前にパソコンのようなものを出して見せます。

そして、キーボードにカチャカチャと知りたい情報の事を入力してボタンを押すと、パソコンの画面に知りたい情報が出てきます。

つまり、自分の机にあるパソコンで情報を検索するのと同じ方法のようです。

これなら、私達も簡単にできます。

私達も目の前にパソコンをイメージして、今回の旅で訪れる事となる星座や星の名前を入力していきます。

すると、私の心の中に次々と情報が入ってくるようです。

私達は、自分達のハートに必要な情報をどんどん入れて持ち帰る事にしました。

PART3 北極星の創造主と出会う

コカブ星から、さらに光の通路を作り、私達は北極星へと入りました。

北極星に入ると荘厳な光のドームがあり、そこに入ると私達の意識は光の中に吸い込まれていきます。

私達が、光のトンネルを抜けて出てきたところに待っていてくれたのは、北極星の創造主です。

創造主様は神々しい光に包まれ、とても偉大で大きな存在です。

私達の体はとても小さく感じられ、最初は、創造主様の足の親指くらいしか見えません。

創造主様は、私達をその掌にすくい取り、自分の顔の所まで持ち上げてくれましたので、ようやくそのお顔を拝見する事ができました。

「やあ、皆さん、お待ちしておりました。
皆さんが、地球人としてここに来てくれた初めての人達です。
皆さんにお会いできた事を、心から嬉しく思っています。」
私達が思っていたよりも、何かフレンドリーな創造主様です。

「あの、私達を待っていて下さったなんて光栄です、ありがとうございます。
私達は、天照大御神様に言われた通り動いているだけです、それほど、大した存在ではないのですが。」
私は、創造主様を前に言葉を失ってしまいました。

「やはり天照達が言うように、正直者だという事が分かりました。
でも TAKESHI さん、今回の仕事は、地球の人達にぜひお願いしたい仕事なのです。
事座のベガ星とわし座のアルタイル星は、皆さんにとってはとてもなじみが深い星です。
何しろ、天の川の織姫と彦星ですからね、
この2つの星は地球にとっては古代からの古い友達なのです。

しかしアルタイル星は、闇の支配を受け、私達の光を受け付けなくなってしまいました。
私達は、自分達と近い次元の星々には自由に行く事が出来るのですが、今回アルタイル星のように、闇の中に落ちた星には、私達はいれないのです。
光がある星や闇に落ちた星に自由に入れるのは、天の川銀河の中でも地球の方だけなのです。
地球には、様々な次元や世界につながる多次元通路というものがあります。
そこを通過して様々な星や世界にいける人が、地球にはごく少数ですが存在しているのです。
其れが TAKESHI さん、あなたなのです。
私達は、あなたと共に行く事で、あなたの助けを借りてどのような星にも入る事が出来るのです。
今回、闇に落ちたアルタイル星を助けるために、あなたの力が、どうしても必要なのです。」

何かしら、大変な話になっています。
まさか、創造主様からお願いされるなんて思いもよりません。
「あ、はい、そうですね。」
私の頭は、創造主様から言われた事を理解するのはいっぱいです。
もはや混乱しているといってもよいくらいです。

「TAKESHI さん、私が言った事をすぐに理解する必要はありません。

あなた方地球人にしてみれば、他の星にスピリット体でいける事だけでも信じがたい事ですし、このように創造主と面と向かって話をしているなんて、普通の人は信じる事もできないでしょう。

しかし、私は、あなたの前にいます。
どうか、この事を受け入れて楽しんでください。」

「あ、はい、わかりました、私達の常識をすてて、楽しむようにします。」
自分でも何を言っているのかわからなくなっています。
私の仲間達が、私の動揺ぶりがおかしくて笑っています。

創造主様は、さらに私達に宇宙の話をしてくださり、また私達一人一人にもメッセージをいただきました。
創造主様が、最後に私達に特別な事をしてくれるようです。

「それでは、これから皆さんに、北極星の創造主の印を施しましょう。
この宇宙の星々には、様々なマスターや女神達が存在しています。
しかし、この宇宙に存在する者達は、創造主の命令には従うものです。
皆さんの額に、これから北極星の創造主の印をつけたいと思います。
この印がある事で、皆さんは北極星の創造主の使いという立場になります。
私に従うマスターや女神は、きっと皆さんの仕事をお手伝いしてくれる事でしょう。
そして、天の川銀河の他の創造主達も、皆さんの事を大切な友人として迎えてくれる事でしょう。
これからの旅が、実り豊かなものになるように、私も見守っています。」

私達の額を、温かい光りが貫いていきます。
創造主様は、私達の額に特別な印を作ってください、私達の光を高めてくれました。
皆さん、創造主様のすごいエネルギーに汗が流れおちているようでした。

私達は、帰りは、ポラリス星からデネブ星を通してベガ星に戻りました。
これで、ベガからデネブそしてポラリス星というきれいな二等辺三角形の光の通路ができて、この3つの星の間にエネルギーが循環できるようになりました。
ベガとデネブ星は、このポラリス星の創造主の光を直接受ける事によって以前にもまして光輝いています。
そのためか、ベガ星に帰ってきた時、マスターベガの姿が、一回り大きく輝きもましたように見えました。

PART4 大天使ラジエル様と光の六芒星

今日の「星のツアー」が始まりました。今日は再びベガ星に向かいました。
ベガ星に降り立つと、いつもの様子と少し異なります。
天女のような方が、ひらひらと空から降りてきて、私達を山の頂へと導いていきます。
私達は、何が起きるのか、まったくわからないまま、天女達についていきます。

山の頂に神社のようなものがあり、まさに神社の奥宮のような雰囲気です。
中に入ると禊の水のようなものがあり、私達は、その水で心と体を清めます。
すると、その場所に白い光が満ちてきて、私達は吸い込まれるように上の世界へと導かれます。

私達はどんどん上がっていくと、まるでさらに高い山の頂きにある展望台のような場所につきました。
しかし、私達の眼下に見えるのは、大地や海ではなく、煌めく星々です。
私達は、通常の「大きな白鳥の六芒星」の星々ではなく、とても高い次元に来た事がよくわかります。

葵さんが私に言います。
「この場所はすごいエネルギーです。
自分の意識を保つ事がとても難しいわ。気が遠くなりそう。」
メンバーは意識を保つ事が困難になるくらい、すごい光で包まれていたようです。
そしてそこに、現れたのが大天使ラジエル様です。
大天使ラジエル様は、この宇宙の神秘を司り、秘密の領域を管理する偉大な大天使です。

「皆さん、大天使の光の世界へようこそ、
地球の人々がここに来る事は、本当に珍しい事です。
地球人のみでなく、この天の川銀河にたいして大きな役目を持っている人達だけがこの世界に入れるのです。
皆さんは見たところ、北極星の創造主の印をお持ちです。
という事は、皆さんが行う仕事は、創造主が計画された仕事であるという事になります。
私達は、創造主の仕事を手伝う立場にありますので、皆さんの事もお手伝いさせていただきます。」

メンバー達が大きな歓声を上げます。
彼女達にとって大天使は、あこがれの的であり、夢の存在です。
美緒さんが、大天使ラジエル様に近づいて話をします。
「大天使ラジエル様、あなたは、私達の憧れでした。」

あなたにあえて、みんなが喜んでいます。」

大天使ラジエル様にサインでももらいそうな勢いで、メンバーの女性達が大天使ラジエル様を囲んでいます。

「はい、皆さんわかりました。

私は、いつも皆さんの事を守護し導いていますよ。

いつでも皆さんのそばについていますから安心してください。

もちろん魔法のワンドも差し上げますからね。」

女性達の勢いに圧倒されたのか、大天使ラジエル様があわてて、女性達をなだめています。

落ち着いたところで大天使ラジエルは、私達に話しを始めました。

「皆さんは、今回この宇宙で初めての仕事に取りかかっているわけですが、この宇宙では、地球の常識とは異なる法則があります。

それは、自分が思い描いた事が現実となるという事です。

皆さんが地球の常識で、これが出来る、これは出来ない、と決めている事が、幻想である事に気づきます。

宇宙では、自分が出来ると決めた事は出来るようになりますし、自分がこのようになって欲しいとおもっている事はそのようになります。

これをみなさんの言葉では「魔法」と呼んでいるのです。

しかし、宇宙では、この魔法こそが常識です。

これから、宇宙で仕事をする為には、自分自身を制限する事なく魔法を大いにつかってください。」

大天使ラジエルは、私達に「魔法の杖（ワンド）」を配ってまわります。

「さて、これは皆さんが、欲しいと願った大天使ラジエル特製の魔法のワンドです。

素敵なクリスタルがついていてとても神秘的ですね。

でも、これは皆さんの気持ちを高めるための物です。

本来は、このワンドには特別な力はありません。

このワンドを持つ事で、皆さんが魔法使いになった気分にしてくれるだけでも十分です。

まず何事も形から入らないとね。」

そう言って大天使ラジエルは、ワンドを振りながら、「美しい花をここに！」と言います。

すると美しい花が、ワンドの周りから溢れるように出てきます。

女性達は大喜びで、自分達もワンドを振りながら、花やクリスタルを出して喜んでいきます。

「大切な事は、自分を信じる事です。

自分は望んだ事を実現する力があると信じる事です。」

大天使ラジエルは、そうやって私達のハートに、「魔法の光」を灯していきます。

自分を信じる気持ち、相手を信じる気持ち。
自分を愛する気持ち、相手を愛する気持ち。
私達の心の中に、大天使ラジエルの言葉が響きます。

私達の心に光を満たすと、大天使ラジエルは言います。

「さあ、それでは、真面目なお話をしましょう。
今回の仕事の目的は「大きな白鳥の六芒星」と呼ばれている星達に光の通路を繋ぎ、その光を高めていく事ですね。
その為に、皆さんは星と星の間に光の通路を作り、エネルギーの循環を良くしていかなければなりません。
しかし、光を線でつなぐだけでは、その光は決して大きくなりません。
星と星の間に描かれた線を広げて面で繋ぐ事によって、六芒星を繋ぐ星々は完全なエネルギーの循環を可能にするのです。
そしてすべてが同じ面で繋がれた時、私達は、その上をスケートで滑るように、軽やかにそしてスムーズに移動できるのです。」

この宇宙空間に作られた光の通路を広げて面にする。
私の中で大天使ラジエルの言葉が、何度も反復されます。

「そうです、その為に皆さんは魔法を使うのです。
最初に、昨日作ったベガからデネブそしてポラリスの星々を繋いでいる二等辺三角形をすべて光で埋め尽くし、光の二等辺三角形を作ってみてください。
まるで、自分がとても大きな姿をした創造主であるかのように考えて下さい。
あなたの両手の上に、昨日作った星々をつなぐ光の二等辺三角形があります。
今はまだ、線でつながっているだけですが、あなたの想像で、線をどんどん大きくして、二等辺三角形が光で埋まる様子を想像して下さい。」

私は、大天使ラジエルが言うように、自分の前に、光で満ち溢れた二等辺三角形を想像します。

「次に、二等辺三角形の短い線を固定して、二等辺三角形の長い線が重なった頂点を、わし座のアルタイルに持って来て下さい。
これで、ポラリス、ベガ、アルタイル、デネブが繋がる光の面が出来ましたね。
そして同じように、一つの面を固定して、光の二等辺三角形をひっくり返していくと、やがて白鳥の六芒星と呼ばれる星の全てに光が繋がります。
それも線ではなく光の面で繋がっているのです。」

私達が体の前で作っている白鳥の六芒星すべてが光の面でつながりました。

「さあ、みなさん見てごらん下さい。」

大天使ラジエルが、私達に、先程まで星々が輝いていた宇宙を指さしました。

するとそこには、星の光をすべて包み込むように、美しい光のフロアーが出来ていました。勿論、闇に落ちたといわれているアルタイル星も、美しい光のフロアーの中で輝いています。星々の高次元の世界では、もうすでにアルタイル星も光に輝いているのです。

私達は、高次元に作った光のフロアーを通して、白鳥の六芒星の中にある星のすべてに自由に行き来ができるようになります。

「さあ、次はこの高次元に作った光のフロアーを、少しずつ下におろして、現実世界にまで光を満たしていきましょう。」

私達は、高次元に創った光の六芒星のエネルギーを、どんどん下の次元にまで降ろしていきます。

この高次元の場所に最初に「光のフロアー」ができる事により、下の次元で何が起きようとも、この光のフロアーは消える事がないそうです。

そのために、私達をこの高次元にまで一気に引き上げ、そこで仕事をさせたのだという事がよく理解できました。

私達が作った光のフロアーは、物質世界から高次の世界まで何層にも分かれて光輝いています。

これで、星々の移動がとても自由になります。

しかし、この光のフロアーの素晴らしさを知るのは、アルタイル星を攻略する為に、多くの星からたくさんの種族が一斉にアルタイル星に入る時となるのです。

第7章 白鳥座の北十字を輝かせる星々

PART 1 白鳥座のデネブから、白鳥の中心サドル星へ



白鳥座にもいくつかの大切な星があります。

私達は、デネブ星の女神アルターニャ様と相談して、これらの星を訪ねる事にしました。

「TAKESHI さん、白鳥座の星々には、いくつかの異なる種族が住んでいます。

私達は、本来とても仲が良く、白鳥座の北十字と呼ばれて、共に活動していたのですが、いつしか心が離れ離れになってしまいました。

それは、星々が様々な問題に見舞われ、共に活動する事が出来なくなったためでもあります。

私達は、出来ればこの機会に、白鳥座の北十字を復活させ、白鳥座のパワーを本来の力に戻したいと考えています。

その為に、TAKESHI さん達にお願いして、一つ一つの星を巡り、どのような状況になっているか調べてもらい、その問題を解決してもらいたいのです。
アルタイルを光の星に戻すためには、私達の北十字がしっかりと働いている事がが必要です。
どうかよろしくお願いします。」

女神アルターニャは、私達が忙しい事はよくわかっていて、本当に申し訳ないという顔をして頼んできます。

「白鳥座の北十字の中央にあるのが、サドルという星です
この星は海の中の世界です。

ドルフィンやクラゲ、魚がいて非常に透き通った生命体が存在しています。
またアルビレオ星は、白鳥座の北十字の中ではとりわけ文明が進み偉大なるマスター達が住んでいました。
白鳥座の北十字の中心となって活躍し、地球にもとても深い関係を持っていたのがこのアルビレオ星です。
この2つの星と、サドルをサポートする両側の星々が一つになって輝き始めると、白鳥座の力は、数倍にもなるのです。」

私達はまず、サドル星にシェンロンに乗って行きました。
シェンロンに導かれるままに、海の中に入ります。
地球の海と同じように、色とりどりの魚達が群れを成して泳いでいます。
イルカや小型のクジラ達も泳いでいるようですが、私達が海の中に入っていくと魚達は驚いて逃げて行ってしまいました。

私達はしばらく海底を巡っていると、まるで大きな貝を組み合わせたような建物があります。
まるで岩肌を様々な貝が覆って、中の建物を守っているようです。
私達がその前で立ち止まり、中を覗こうとしたら、中から異変に気づいて3人のマーメイド達が出てきました。

「あなた方は、どなたですか、何のためにここに来たのですか。」
マーメイド達はいぶかしげに問いかけます。
「私達は地球からやってきた人間です。
デネブ星の女神アルターニャ様から白鳥座の北十字を復活させる手伝いをしてほしいと頼まれましたので、ここにやってきました。
お邪魔だったでしょうか。」

マーメイド達は、女神アルターニャの名前を聴くと嬉しそうな表情を見せます。

「しばらくお待ちください。」とマーメイドの一人は声をかけ、建物の中に入っていました。

マーメイドの様子を見た宇宙の光のメンバー達はとてもうれしそうです。

近くによって、話しをしています。

先ほどのマーメイドが戻ってきました。

「皆さん、このサドル星に来られた事を、女神が大変うれしく思っているようです。

どうぞ中にはお入りください。」

私達は、シェンロンを外に待たせて建物の中に入っていきます。

中には、まるで透き通ったような白い肌を持つ女神が、にこやかな顔をして立っています。

「皆さん、このサドル星に良くいらしてくださいました。

私はサドル星の海の女神ジェンダーです。

私達の星は、ご覧のとおりすべてが海です。

海に生きる生命達が、この星の住人なのです。」

「女神ジェンダー、本当に美しい海です。

地球の海よりも純粹でさらに美しい海です。

私達も心が癒されるようです。

しかし、女神アルターニャが皆さんの事を心配していましたが、何か起こったのですか。」

女神ジェンダーは、少し悲しそうな顔をして答えます。

「私達の星に直接被害はなかったのですが、アルビレオ星とギユナ星に、隕石が落ちてしまい、この2つの星が大きな被害を受けてしまいました。

この星に住んでいたマスターとも連絡が取れないのです。

私達の星は、女神アルターニャの星も含めて、白鳥座の北十字をつくる4つの星の中心となる星です。

この4つの星のバランスが大きく崩れてしまったために、私達の星も力を失い、女神アルターニャと連絡を取る事さえもできなくなってしまったのです。

どうか、アルビレオ星とギユナ星を訪ねて、マスター達を助けてあげてください。

そうする事で、私達の星独自のパワーも目覚めてきます。」

「女神ジェンダー、よくわかりました。

皆さんが言われた通り、それらの星も尋ねてみて、マスターの事を探してみましよう。」

私の横で、美緒さんが、女神ジェンダーに尋ねます。

「このサドル星の、独自のパワーとはなんですか、教えてください。」

女神ジェンダーは、私達の仲間の女性達を見て、少し大人っぽい表情をしてみせます。

「このサドルという星は、女性性の象徴でありハートのエネルギーに深く関係しています。この星とデネブとの光が一つになる事で、愛と美の力が広がってくるのです。

もちろんその時には、皆さんにもたっぷりとこのエネルギーをお分けしますね。」

女神ジェンダーの女性らしい表情から、愛と美の力という言葉が出るだけで、女性達は興奮しています。

素敵なプレゼントになりそうです。

PART2 ギュナ星と叡智のクリスタル

私達は、サドル星を出て、白鳥座の翼の場所に位置するギュナ星へと向かいました。

最初は幻影がかかっているうまく入れませんが、ある扉の場所に私達が立つと、私達の額にある創造主の印が光り始めました。

最初は何が起きたのか、私達は見当が付きません。

創造主の印から光がはなたれ、扉にあたると、その扉が左右に開きます。

最初見えて来たのは、隕石が衝突して荒野となってしまった世界です。

私達は恐る恐る中に入ると、荒野となった世界がすーっと消えて、地下世界のような場所が見えてきました。

ここに住んでいた人は、隕石の衝突や地上での生活の危険性を知って、あらかじめ地下世界を準備していたのかもしれませんが。

そこは、とても美しい文明都市のような感じですが、あまり人々がたくさん住んでいる様子がありません。

私達が、地下都市に入ってきた事に気づいたのか、ギュナ星のマスターが、私達の前に現れました、

彼は背が高く、白い服を身にまとい、長い白髪を後頭部のほうでまとめた姿をしています。

「あなた方は、どちらからいらしたのですか。

この白鳥座の方ではないように思われますが。」

私は丁寧にあいさつをして答えます。

「私達は地球からきた地球人です。

今回アルタイル星を救って欲しいと天照大御神様から頼まれて、白鳥座やペガサス座の星々を回っています。

ここには、女神アルターニャ様から、白鳥座の北十字を復活させるために、白鳥座の各星を回ってほしいと頼まれてきました。」

「そうだったのですか、最近この白鳥座やペガサス座のエネルギーが大きく変わってきたのはそのせいだったのですね。

この星に大きな隕石が急に落ちてきたために、星の地軸が変化して星のエネルギーのバランスが崩れてしまいました。

そして、星は次元降下して他の星との連絡が取れなくなってしまったのです。

隕石の落下により多くの人々が亡くなりましたが、かろうじて生き残った者達は、この地下都市で暮らし、星の復興のために努力してきました。

ところが先日、突然この星のエネルギーが変わったのです。

今迄、降下していた次元から、まだ完全ではないのですが、少しだけ前の次元に戻ってきたのです。

これも、あなた方がなされた事でしょうか。」

葵さんが、少し自慢げに答えます。

「もちろん、そうです。

大天使ラジエル様と一緒に、白鳥の六芒星と呼ばれる星々を光で包み、さらにその全域を光で満たし、光のフロアーを作ったのです。

大天使ラジエル様は、光のフロアーが出来る事で、全ての星が光に包まれるとおっしゃっていました。」

葵さんは大天使ラジエルから頂いたワンドを振りながら、マスター達に説明します。

ギユナ星のマスターの周りには、話を聞いて多くの人達も集まってきました。

皆さん、この話を聞くと、口々に「なんてすごいんだ、」

「さすが大天使ラジエル様。」

「この方達は、大天使様の使いの人達なんですね。」

と、私達の事を褒めたたえています。

私はすこし気まずくなってマスターに言います。

「私達は女神様達から言われた通りの事をしているだけです。

これで、皆さんの星は元に戻ったのでしょうか。」

マスターはうなずきながら答えます。

「もちろん完全ではないのですが、あとは自分達で何とかできます。

これで女神アルターニャや女神ジェンダーとも連絡がつきますのでご心配なく。」

マスターはお礼に、クリスタルを一つずつ私達にプレゼントしてくれました。

「どうか、このクリスタルをお持ちください。

このクリスタルは、あなた方の思考を活性化し意識を高めてくれるサポートをしてくれるでしょう。

これから皆さんが行おうとしている事は、地球の人々にとっては、初めての経験となるはずですから、きっとこのクリスタルが、皆さんを助けてくれますよ。」

メンバー達は澄み渡ったクリスタルを手に取り、とても喜んで、お互いのクリスタルを見比べています。

「そして、これから行くデルタ星は、私達の星の影響で大変な事になっているかもしれません。

どうかデルタ星の女神を見つける事が出来たら、助けてあげてください。

きっと皆さんでしたらできるはずです。」

私達は、マスターにお礼を言って次の星へと向かいます。

PART3 デルタ星の泉に眠る女神

私達が来たのは、ギユナ星と対極をなす翼の星、デルタ星です。

デルタ星は、深い霧に覆われた星です。

元々は美しい花が咲き乱れる野原や動物達が暮らす森だったようですが、ギユナ星が隕石の落下の影響で次元降下してしまったせいで、この星も影響を受けバランスを崩してしまったようです。

今では、霧に閉ざされたひっそりとした星になってしまったようです。

美緒さん達が、身を寄せながら、不安がっています。

「ここ、怖いよね、帰ろうよ。」

葵さんが、そんな美緒さんを見て「ここでも何かもらえるかもしれないよ。頑張ろうよ。」と訳の分からないフォローをしています。

私達も、ここで帰る訳にはいかないのです。

私達の額につけられた創造主の印が光ると、深い霧が少しずつ晴れてきました。

すると、荒れ果てた森の中に、大きな角を持つ一頭の牡鹿が私達の前に立っています。

牡鹿はしばらく私達を見つめていると、私達について来いと言わんばかりに、森の中の小道を歩き始めました。

私達は、鹿にいなわれて泉に辿り着きました。

その泉はひっそりと静まりかえり鳥の声さえもしません。

私達が、牡鹿に後をついて、その泉を半周ほどすると、泉の対岸に、意識を失って倒れている美しい女神がいらっしゃいました。

そこだけ太陽の光が当たっているように明るく、花々が周りを美しく飾っています。
私達は、この眠りについてた女神達をどのようにして目覚めさせたらよいかわかりません。
目覚めるように祈って見ましたが変化はありません。

その時、葵さんが、ギユナ星のマスターから持ったクリスタルを取り出しました。
「この星は、ギユナ星と深い関係がある星でしょう。
ギユナ星のマスターも、きっとこの星の状態は知っていると思うの。
そしたらその為に役に立つ物を私達にくれるはずだから、もしかしたら、あの時のクリスタルが、この女神を目覚めさせる役に立つかもしれないわ。」

葵さんが、クリスタルを女神の頭の横に置きます。
他のメンバー達もクリスタルを取り出して、女神を取り囲むように置きました。
そして私達が、祈りをささげていると、温かい光りが一つ一つのクリスタルから放たれ、眠っている女神を包み込み始めます。

すると、女神がうっすらと目を開け始めました。
女神の頬にも赤みが差し、体全体も呼吸に伴って緩やかに動き始めます。
女神がかすかに体を動かし始めました。

葵さんがその様子を見て言います。
「ギユナ星のマスターもすごい事考えるよね。
クリスタルの光で眠りについてた女神を目覚めさせるなんて、まるで映画みたい。」
そういいながら、彼女は、女神の手を取り座らせます。

女神はようやく自分が目覚めた事に気づいたようです。
「私達は一体どうしたのかしら。
あなた方は、一体誰なのかしら。
突然大きな地震のような揺れが起きたかと思うと、気を失ってしまったのです。」
女神は自分の記憶の糸を少しずつ解きほぐしているようです。

「女神よ、目覚める事が出来て本当に良かったです。
私達もそしてギユナ星のマスターも、きっとあなたに出会えると信じていました。」
私は女神に、ギユナ星が隕石の落下によって大きな被害を受け、星が次元降下した事や、ギユナ星の人達が地下都市で暮らし、星の復興を行っている事を話しました。

女神は、きっとギユナ星のマスター達と交流があったのでしょうか。
その話を聞くととても悲しそうにしています。

「おそらくギユナ星の次元降下の影響で、この星も次元が降下した可能性があります。そのショックで、あなたは意識を失い眠りについたのでしょう。ずっとこの牡鹿があなたの事を見舞ってくれていたようです。ギユナ星のマスターは、あなたが眠りについていてる事をご存じだったのでしょう。私達に思考を活性化するためのクリスタルを分けてくださいました。このクリスタルを使用する事により、あなたの眠りについていてる思考と意識を目覚めさせる事ができたようです。」

「そうだったのですか、やはりギユナ星に隕石が落下したのは本当だったのですね。でも、皆さんのおかげで助かりました。ありがとうございます。」
彼女は、大地にひざまずくと、自分が目覚めた事を、デルタ星の大地とギユナ星のマスター達に感謝をささげています。

祈りが終わると、女神は私達に向かって言います。
「私とこの星を助けてくださって本当にありがとうございます。
もし皆さんが、この星に来て下さらなければ、やがて私の生命も枯果て、この星は深い闇に閉ざされるところでした。
あなた方は、私とこの星にとって大切な命の恩人です。
それで、皆さんはどちらの星からいらしたのですか。」

「私達は、地球から来た地球人です。
ベガ星の天照大御神様に頼まれて、アルタイル星を闇から救出するためにやってきたのです。
今は、女神アルターニャにお願いされて、白鳥座の星々を復興させているところです。」

女神の顔がとても明るくなりました。
「アルビレオ星のマスターの予言は本当だったのですね、
やがてこの地に地球人がきて、私達を救ってくれる、そのために、自分達は地球に行って地球人達を教育するのだといっていましたから、アルビレオ星のマスター達は素晴らしい教育を地球で行ったのですね、
なんてすばらしいのでしょうか。」

私の頭にいきなりクエッション・マークが飛び込んできました。
アルビレオ星のマスターが、私達の事を予言していた？
アルビレオ星のマスター達が地球に来ていた？
私は、これから訪れるアルビレオ星の事がとても気になります。

PART4 アルビレオ星のマスターの目覚め

私達は、シェンロンと共に、デルター星から白鳥座のくちばしにあたるアルビレオ星へと向かいました。

本来であれば、素晴らしい叡智に満ちたマスター達がいる星なのですが、今は草木も生えていない荒れ果てた星のようです。

ただしところどころに、大きな遺跡の様なものが見えます。

形は崩れているのですが、ピラミッドや石造りの神殿の跡がはっきりと残されています。遺跡が大好きな遥さんが、遺跡を見て、地球のマヤの遺跡に良く似ている事を伝えてくれます。

私達は、この星の様子を見るために、シェンロンで星の上を飛び回り、何か手がかりがないか探しました。

すると、ある場所で、動物のようなものが動いている様子を美緒さんが発見しました。

「TAKESHI さん、何か動いている物がいますよ。

そこに降りてみましょう。」

美緒さんは、シェンロンの首を下げ、星の地表に向かって急降下していきます。

彼女のシェンロンさばきはとても素晴らしく、メンバーの中でもかなう者はいません。

私達は注意深く、その動いている物の近くに降りてみました。

まるで岩の塊のようにも見えますが、動いている様子は2本足で立っている熊のようでもあります。

私達が近づくと、その存在も気づいたようで、テレパシーで話しかけてきます。

私達は、まさかその存在がテレパシーを使える叡智ある存在だとは思っていませんから驚きました。

「なにこれ！私達に話しかけてくる！まさか、これって岩人間。」

美緒さんが驚いて叫びます。

私達はその存在の事を「岩人間」と呼ぶ事にしてコンタクトを取ります。

「私達は、この星が隕石の衝突によって潰滅してしまう事を知ったマスター達によって生み出されました。

この星に残された建物を守り、この星のマスターが復活するときのために準備をしておくように命令されたのです。」

確かに、彼らはこの荒野の中でも生きていける体の構造をしているようです。
しかし、吹き荒れる砂嵐の前では、この星の建物を守る事は難しかったようです。
ただ、彼らとうまくコンタクトを取れたという事は、きっとマスター達にも会えるに違いありません。

「あなた方は、地球から来られた方ですか？」
岩人間が、私達に聴いてきましたので、私達はそうだと答えました。
「私達のマスターは、あなた方を待っていたらっしゃいました。
私のご案内しますので、どうぞこちらにいらしてください。」

やはりそうです、ここのマスターは私達が来る事を予測して、岩人間達をこの地上に待機させていたのです。
私達は、岩人間に案内されて、大きなピラミッド型の山のように見える建物の中に入ってきました。
暗く荒んだ通路を通り抜けていきます。
「宇宙の光」のメンバー達がドキドキした気分で歩いているのがわかりますが、奥には何があるかわかりません。

葵さんが言います。
「この通路の奥には何が待っているのかしら、もしかしたらファラオのミイラが襲ってくるかも。」
女性のメンバー達が、「きゃー」と叫んで遊んでいます。

通路を抜けるとそこはピラミッドの内部のような石造りの部屋でした。
中に入ると、暗い部屋に石棺が5つおいてありました。
誰かが怖くなったのか、「えー」とつぶやいています。

石棺には、古代マヤや古代エジプトと同じように様々な象形文字が描かれ、美しいラピスラズリーの石がたくさんはめ込まれています。
中をのぞくと一つ一つの石棺に、マスターが横たわっています。
古代エジプトと同じように黄金の仮面をかぶっています。

デルタ星の女神が、アルビレオ星のマスターが、将来、自分達を救ってくれる地球人を教育する為に、地球に行って教育を行ったという言葉の意味が分かりました。
彼らは古代エジプトや古代マヤに降り立ち、人類を導いていたのだと思われます。

私達は、このマスターを目覚めさせるために、アスクレピオス様の力を借りる事にしました。
心の中で、アスクレピオス様にお願いすると、彼はすぐにやってきてくれました。

そしていきなり、石棺の中で横たわっている5人のマスターを見て驚いたようです。

「このような場所に彼らは眠っていたのですね。

この宇宙の中でも素晴らしい叡智を誇る聖人であり、偉大なる指導者です。

この星に隕石が落ちて、星が壊滅しましたが、これほどの叡智を持つ人が、その犠牲になると思えませんでしたので、私達は、彼らがどこに行ったのか、心配していたのです。

このような場所で、自ら眠りについていたとは思いませんでした。」

アスクレピオスは、5人のマスター達を調べています。

「TAKESHIさん、大天使ラジエルを呼んでももらえませんか、

彼は、自分達に封印をかけていますので、私の力だけでは難しいようです。」

私は先日、私達に魔法の講義を行ってくれた大天使ラジエル様を呼び出します。

大天使ラジエルは、今日は一回り大きく美しく輝く杖を持って現れます。

「TAKESHIさん、そしてアスクレピオス様、お困りのようですね、私もお手伝いしましょう。」

大天使ラジエルは、その様に言うと、一人一人のマスターの頭上に立ち、特別な神聖幾何学を描いています。

マスター1人1人に異なる神聖幾何学を描きながら呪文を唱え、マスターにかけられた封印を解いていきます。

「TAKESHIさん、皆さんはギユナ星のマスターから、意識を活性化させるクリスタルをもらいましたね、それがが必要です。

皆さんのクリスタルをマスターの周りに置いてください。」

私達は、急いで5人のマスターを取り囲むように、クリスタルで六芒星を描きました。

「そうです、六芒星はエネルギーを活性化させるとともに安定させます。

そしてこのクリスタルの光が、マスター達を包み、彼らの光を高めて目覚めるように祈ってください。」

美緒さんや葵さん、そして他のメンバーも自分が置いたクリスタルのところで、跪いて祈り始めました。

クリスタルの光が、メンバー達の祈りに呼応してどんどん大きくなり広がっていきます。

大天使ラジエルは、さらに高度な神聖幾何学を描き、複雑な呪文のような言葉を口にしています。

やがて大きな光がアルビレオ星の5人マスター達を取り囲みました。

光がスパークし火花が飛び散っています。

アルビレオ星のマスター達の封印がとけたようです。

彼らは目を開け、ゆっくりと起き上がります。

アスクレピオス様が駆け寄り、体の様子を調べているようです。

マスターの一人が嬉しそうに語ります。

「ようやく、その時が来たようだ、

私達は眠りから覚め、白鳥座や多くの星々とひとつになって、この偉大なる「白鳥の六芒星」の光を取り戻す時が来たのだ。」

マスター達は、少しよろめきながら立ち上がり、石棺から出ると、お互いの肩を抱き合って、祝福しています。

「それで、私達を目覚めさせてくれたのは、あなた方ですか。」

とても体格が良いアルビレオ星のマスター達を前に、きょとんとした顔で立っている小さな地球人を見て、マスター達はどう思ったのでしょうか。

「これは愉快だ、あなた方は体も小さく、まだ宇宙の叡智に対する知恵も足りない。

しかし、あなた方の中には、誰にも負けない純粋な愛と正義が満ちている。

まさに、光り輝くクリスタルそのもののパワーを秘めた地球人がやってきてくれた。

偉大なる神の導きに、私達は感謝しよう。」

マスター達は、自分達が眠っていた石棺から、ラピスラズリーを外すと、メンバーの一人一人に感謝の言葉を言いながら、ラピスラズリーを私達の小さい手に握らせてくれました。

「このラピスラズリーは、私達の生命力の象徴であり、大いなる守護の石です。

どうかこれからの旅に、このラピスラズリーを同行させてください。

皆さんのお役に立つ事でしょう。」

彼らは、私達を伴って、この部屋から出ていきます。

アルビレオの星の地表に出ると、星のエネルギーはとても穏やかになり砂嵐も止んでいます。

岩人間達もたくさん集まってきました。

「偉大なるアルビレオの大地よ。」マスターの一人が呼びかけます。

「私達は、長い間の眠りから目覚めました。

今ここに、新たなる時がアルビレオの大地に巡り、神聖なる光がアルビレオに宿ります。

偉大なる光のマスター、偉大なる創造主達よ、この星に、神聖なる光を導きたまえ。」

他のマスター達も、光の杖を掲げ、祈りをささげています。

PART6 白鳥の十字が輝きだす。

祈りが終わると、アルビレオ星のマスターは、私達に向かって言います。

「それでは、私達が復活した証に、デネブ星の女神のもとにご挨拶に行きましょう。」
そうすると、大きな白鳥が5羽、マスターの前に現れました。

マスターは、白鳥に乗ると、大きな羽をはばたかせ、舞い上がります。

私達も、急いでシェンロンを呼ぶと、シェンロンにのってデネブ星へと向かいます。
アスクレピオス様も大天使ラジエル様も共に、デネブへと向かいます。

デネブ星では、女神アルターニャをはじめ、サドル星の女神ジェンダー、ギユナ星のマスター、そしてデルタ星の女神も私達をまっています。

そこに、アルビレオ星の5人マスターと私達が到着しました。

フェアリーやホビットがお花をまき散らし祝福します。

アルビレオ星のマスター5人が、女神アルターニャの前に進み出て、再会の喜びを表しています。

そして、サドル星の女神ジェンダー、ギユナ星のマスター、そしてデルタ星の女神達にも、再会の喜びを表しています。

女神アルターニャは、私達を自分の横に座らせるために手招きをします。

私達が女神アルターニャの横に座ると、女神アルターニャは私達に深い感謝の気持ちをささげます。

「偉大なる地球の人々の働きによって、私達の仲間が目覚め一つとなりました。

これで白鳥座の星々は一つにつながり北十字星の輝きが戻ります

この輝きは、アルビレオ星をとおして、アルタイル星へと送られる事でしょう。

私達は、必ずや、「白鳥の六芒星」の星々を復興し、新たな光の世界を開く事でしょう。
皆さん力を一つに合わせて、しっかりと働きましょう。」

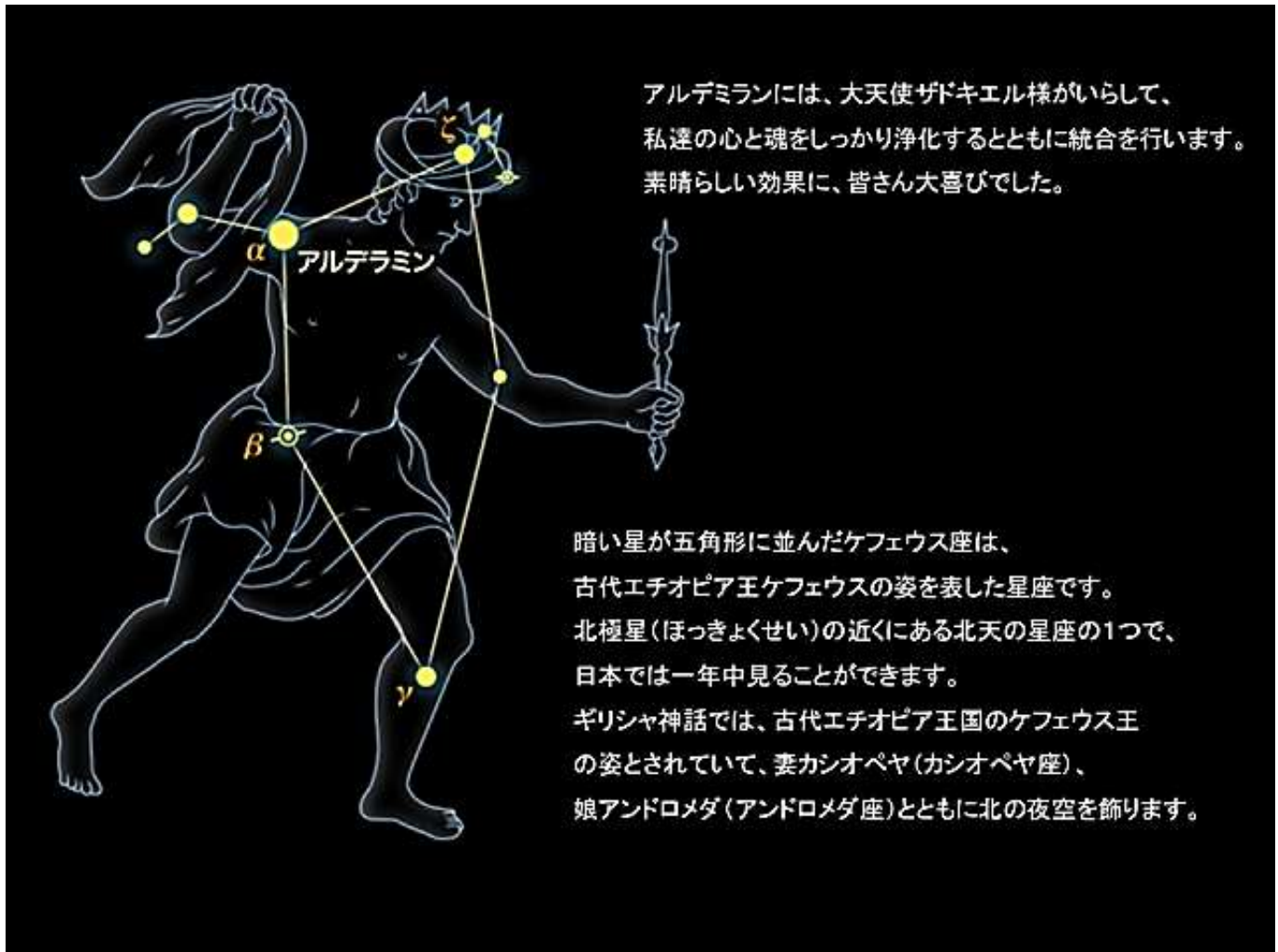
女神アルターニャの言葉に、長い年月の間、眠りについていたアルビレオのマスター達、デルター星の女神、そしてその事を心配していた女神ジェンダーやギユナ星のマスター達が涙を流して喜んでいます。

彼らの語らいは、しばらく終わる様子はないようです。

私達は、大事な任務を終え、地球に戻り休む事にしました。

第8章 偉大なるマスターとドラゴン達

PART1 ケフェウス座のアルデミラン 浄化と変容の光



この白鳥の六芒星の輝きを取り戻すために、私達は未だ行った事もない星に訪ねる事にしました。

最初に行くのは、アウディケウスの勧めでケフェウス座のアルデミラン星に向かいます。

この星座は、アンドロメダ座のアンドロメダ姫のお父さんの星座ですね。

その中心に輝くのがアルデミランという星です。

この星は切り立った渓谷の様な場所が多く、私達はシェンロンにのって、注意深く進んでいきます。

私達の前に、突然とても大きな体をしたマスターが現れます。

マスターは、マスターアルデミランと名乗りますが、とても大きな大天使のエネルギーを持っているように思えます。

「偉大なるマスターよ、あなたにお会いできて、私達はとてもうれしく思います。
私達は、地球人ですが、ベガ星の天照大御神様からのお願いで、アルタイルの星を浄化する為の仲間を探しています。」

マスターアルデミラン様は、しばらく私達の様子を見ています。
そして、私達に話し始めました。

「皆さんは、地球からやってこられたという事は、地球での物の考え方に慣れていらっしゃるようですので、少しお話をさせていただきます。
私達は、本来は光と闇の対立という事を考えていません。
闇は、光が持っていない力や働きをもっています。
闇を恐れ、闇を憎む事自体が、皆さんの心に怒りと憎しみの感情を芽生えさせてしまいます。

闇は、本来は創造的なものです。
まるで、昼と夜のように分かれています。皆さんの地球では、昼と夜のどちらも大切です。
昼の時間は、創造的に活動し様々な仕事を行いますが、夜の時間になると、皆さんは体を休め、新たな創造の為に準備を行います。
また夜の夢の中で、さまざまなアイデアやひらめきを受ける事もあります。
あなたの中に、2つの物を区別し、どちらが良い、どちらが悪いという価値判断をなるべくしないようにしてください。
そうしなければ、物事の大切な面を見落としてしまう事になるでしょう。」

このマスターアルデミラン様は、主に癒しと浄化のエネルギーを司るマスターのようで闇と光の事についてもかなりお詳しいようです。
私達に「決して闇と戦ってはいけない。」という事を教えてくださいます。

話が終わると、マスターアルデミラン様は、私達一人一人に浄化と癒しの光を送ってくださいました。
メンバーによっては、体からモクモクと黒い煙が湧き上がってくるように見える人もいますし、体の内側から光が大きく輝き始める方もいます。

それぞれが独自のやり方で、心やスピリットからネガティブなエネルギーを放出してゆく様をお互い見ていました。
葵さんや美緒さんはもちろん、遥さんもお互いに起こっている事を見ています。
きっと終わってからいろんな事を言いあうのでしょうね。
マスター自らが行うヒーリングは、とても素晴らしいものです。

見ているだけで感動すら覚えるくらい美しくパワフルです。

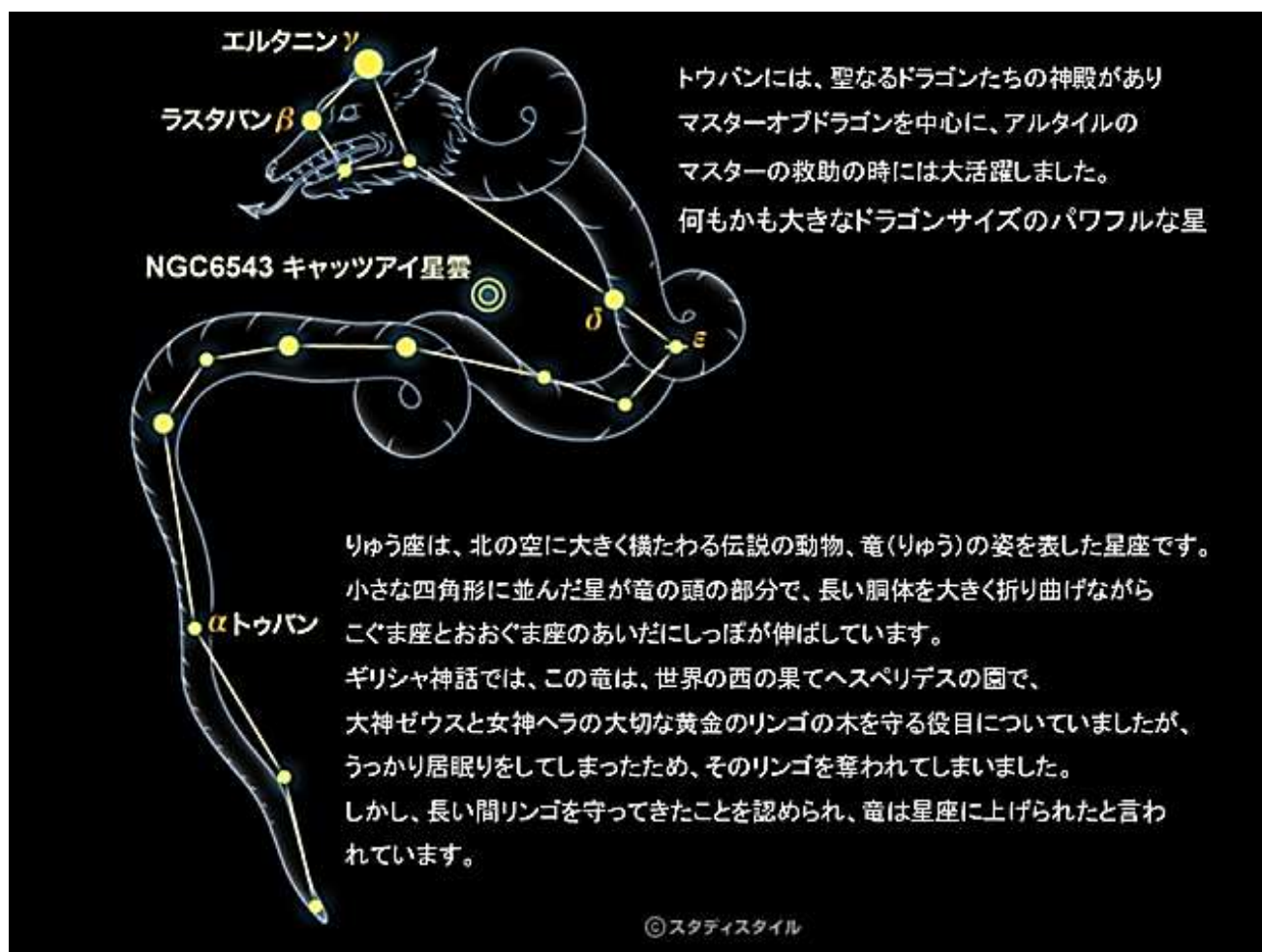
このアルデミラン様の星に入る時、メンバーの一人が、大天使ザキエル様の光の六芒星のサインを見ていた事から、このアルデミラン様は、大天使ザキエル様ではないかと思っています。

大天使ザキエル様はサンジェルマン様とも深く関わりがあり、共に紫色の光を癒しと変容に使用されます。

今回、アルデミラン様のヒーリングを見ていて、サンジェルマン様の変容と統合の光との類似性を深く感じました。

マスターアルデミラン様は、私達の中に、憎む心や怒る心を持たないようにする事で、これからアルタイル星の浄化を行う時に、闇の力に惑わされないようにしてくれたのだと思います。

マスターアルデミランに深い感謝をささげて、私達は次の星へと向かいます。



PART 2 りゅう座 トゥバン星のマスターオブドラゴン

私が今回の星座の中でも、もっとも行きたかったのが、実はこのりゅう座です。
このりゅう座は、北極星を取り囲むように大きく広がっている星座ですので、おそらく偉大なシェンロン達がいるのではないかと、私は考えていました。

りゅう座の入り口ともなるトゥバンに降りるとそこはまさに雄大な大地が広がっています。
ひとつひとつの山や川も、驚くほど大きくて、私達人間の大きさなんて問題になりません。
私達は、シェンロンにのって大きな渓谷を抜けると広い場所に出ます。

空には大きなシェンロン達やドラゴン達がゆうゆうと飛んでいる姿が見えてきます。
シェンロンとドラゴンは同じドラゴンなのですが、シェンロンは通常のドラゴンよりも大きめのサイズで光も強く、動くスピードも速いようです。
それは、シェンロンは一つの星だけに関わるのではなく、いくつもの星や宇宙に関わる役目を持っているからです。

この広い場所の中央に存在しているトゥバンの神殿はとても大きく威厳があります。
私達もシェンロンにのって恐る恐る神殿の中に入ります。
ドラゴンが大好きな美緒さんが、左右をキョロキョロ見渡しながら喜んでいます。
「こんなに大きくてパワフルなドラゴン達を見た事がないわ、すごすぎる。」
葵さんや遥さんも興奮状態です。

トゥバンの神殿の中には偉大なシェンロン達が勢ぞろいしています。
その中央に、大きな長老のシェンロンが、私達を待っています。
シェンロン達は、私達が来る事は分かっていたらしく、喜んで迎えてくれました。

「偉大なる地球の人よ、そして私達の大切な兄弟である地球のシェンロン達よ、
あなた方が、ここに来てくれた事、そしてシェンロンが、ここに戻ってきてくれた事を、私達は心から嬉しく思います。
シェンロン達よ、あなた方は、地球の人々をここに導く事で、見事な仕事を果たしてくれました。
しかし、この地球の人々の役目は、これだけで終わるものではありません。
これからも地球の人々と共に、宇宙のために働いてください。
とはいうものの、初めて経験する事ばかりで、あなた方も大変なお疲れになられた事でしょう。
今日はすこしばかりここで休んでください。」

シェンロンの長老がそういうと、私達のシェンロンは、神殿の床にすっと降り立ち、体をくねらせながら休んでいます。

神殿の床からは大地のパワーがふつふつとわき起こり、シェンロン達を癒しています。

そして横たわったシェンロンの上からは、高次のシェンロンが金粉を降らし、シェンロン達の生命力を高めています。

私達のシェンロンも、多くの仲間に出会えた事で、とても嬉しそうにくつろいでいます。

その間、私達はこの宇宙に存在するシェンロンやドラゴン達の話をお聞かせいただきました。ドラゴン達の本質は光であり。この宇宙の創造のエネルギーや循環のエネルギーをその身にたたえて、星々や宇宙を巡っている事。

シェンロン達にも、天使達と同じようにいくつかのレベルがあり、ひとつの星を守護するシェンロン、ひとつの星座を守護するシェンロン、そして宇宙規模で活躍するシェンロン達がいる事なども教えていただきました。

そしてシェンロン達もその役目に応じて変容を繰り返す事など。

マスターからシェンロンに関わる多くの話を聞かせていただきましたが、トゥバンの神殿の長老ドラゴンは、私達をここに呼び戻すために、私達のもとにシェンロン達を送って下さったという事でした。

私達がシェンロンに導かれて、自らを成長させ、このトゥバンに戻ってくる事を待っていたそうです。

それも今回の、白鳥の六芒星の光を取り戻すために。

これからトゥバンのマスター・シェンロン達も、私達と同行して共に旅をしてくれる事になりました。

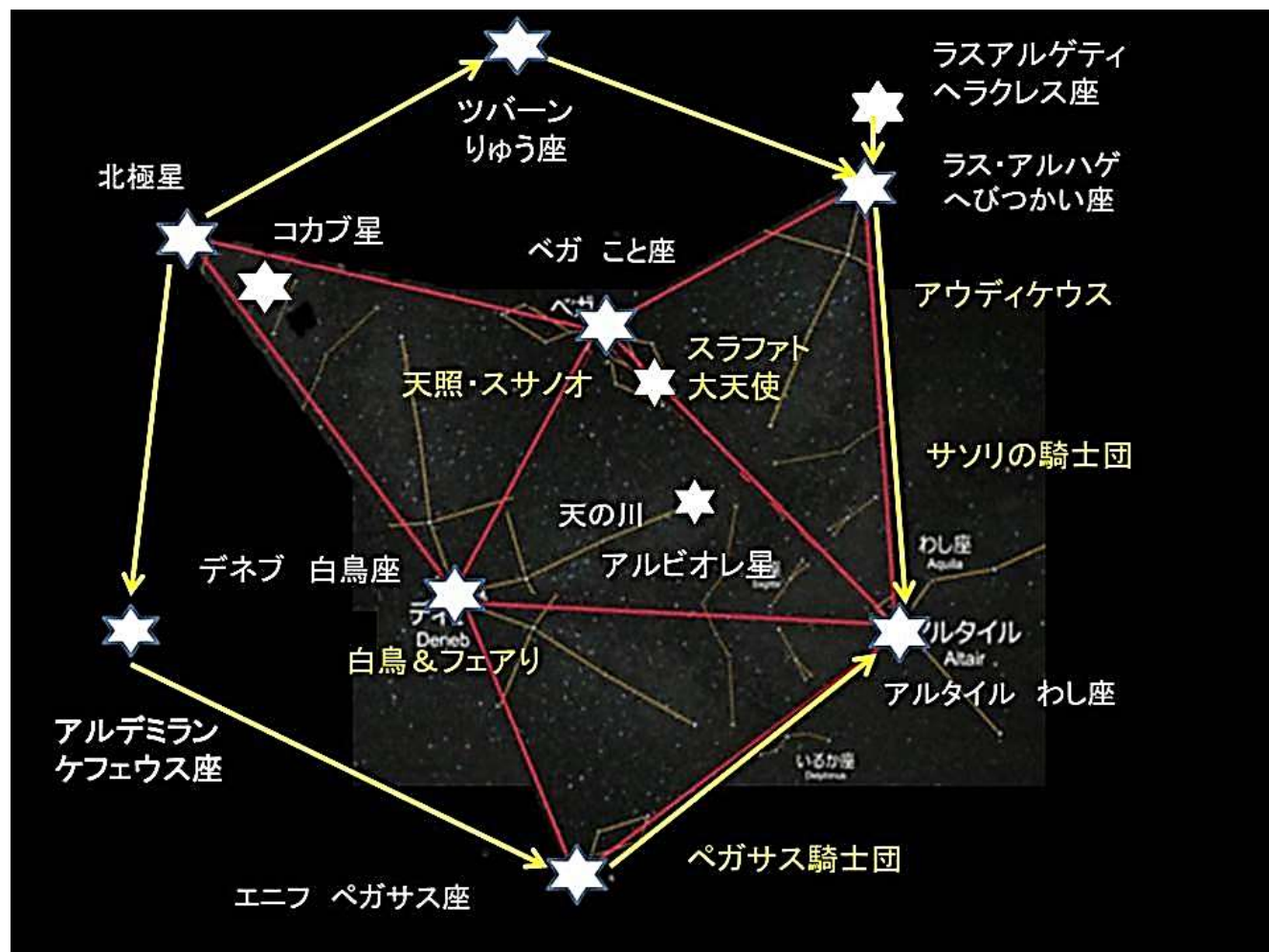
もちろんここでは、偉大なマスター・シェンロンによって、私達のシェンロンを大きく変容させていただきました。

メンバーのシェンロン達は、高次のシェンロンから、素晴らしい光を受け取り、さらに宇宙サイズと思えるほどに大きくなり能力が高まりました。

これで、アルタイル星での活躍も期待できます。

第9章 白鳥の六芒星の結束

PART1 白鳥の六芒星の結束を固める



私達は、今夜の星のツアーでアルタイル星へと入る予定ですが、本当のところ、アルタイル星にはいる事で何をおこなえばよいのかが、分っていません。

ただ、闇に落ちたアルタイル星を救わなければならないという使命感で、仲間達を集めてきました。

マスターアルデミランの言葉でも、闇を憎む事をしてはいけないといわれ、本心では、どのようにしたらよいか迷っています。

前日の夜、私は不思議な夢を見ました。

私の夢の中に現れた女性は、自分の名前を「ビジョン」と語り、私にアルタイルのマスターを救ってくれと懇願してきます。

彼女自身も大変やつれており、意識もはっきりとはしていないようですが、私に、あるビジョンを見せてくれます。

それは、私達がアルタイル星に入り、目印となった場所から地下に入り、地下でとらえられているマスターを救出するというビジョンです。

その為に、どの場所をどのように進めばよいかという具体的な道案内に役立つ目印を私達に見せてくれていました。

私が驚いて目を覚ますと、女性の姿も消えてしまいましたが、これは今日のアルタイル星の攻略には大切な情報のようです。

夜の22時になると、私達の星のツアーが始まります。

参加している皆さんは、普通の会社に勤務している会社員ばかりなので、夜の遅い時間からでないと始められません。

そして3時間近くの間、私達はスピリットとなり宇宙を駆け巡るのです。

私達は、窓から夜空を見上げます。

私達の頭上には、これから向かうベガ星とアルタイル星、そして天の川が輝いています。

今夜は、白鳥の六芒星を司る星々からアルタイル星への救出が行われますが、地球からもアルタイル星へ光を送る準備をしています。

アテナ様、女神セレーネ様は、大地の女神ガイア様と共に地球からアルタイルに向けて光を送ります。

私達はまずこの地球から、アルタイル星に向かう大きな光の通路を作り、地球からアルタイルに向けて光を送る準備をしました。

そして、アルタイル星が闇から解放され、「大きな白鳥の六芒星」が無事動き始めると、アルタイル星からの大きな光が、この地球にも降り注いでくる事でしょう。

今回の目的は、闇によって支配されているアルタイル星を光の星に戻していく事です。

それも闇と戦うのではなく、闇を認め闇に光をもたらす事によって、アルタイルを取り戻していく事になります。

そして、夢の中で見たアルタイル星のマスターを救出する事が、私達の使命です。

私達はシェンロンに乗って、ベガ星に入りました。

先日作った光の通路&フロアーによって、白鳥の大きな六芒星の星達が光でつながり輝いています。

この光のフロアーを使う事で、今迄よりももっと簡単に各星へと移動ができます。

ベガ星の神殿に降り、マスターベガに挨拶をし、今日の計画について報告しました。

アルタイル星のマスターが閉じ込められている事に関しては、マスターベガもよくご存じの様で、私達がマスターの存在に気づき助けてくれる事を心から願っている事を伝えてくださいました。

「TAKESHI さん、そして宇宙の光りの皆さん、ついに私達の願いが叶う時がやってきました。わし座のアルタイル星と事座のベガ星は深い関係で結ばれています。

地球にも彦星と織姫の伝説があるように、この2つの星は、地球にとっても大切な役目をしています。

それは、創造主の素晴らしい光を、アルタイル星を通して、地球に送る事なのです。

アルタイル星が、闇に落ちてしまった今、私達は自由にアルタイル星へ入る事が出来なくなりました。

あなた方、地球の人々は、地球の多次元通路を利用して、アルタイル星に入る事が出来ます。

そして、私達もあなたと共に行動する事によって、アルタイル星に入り、アルタイル星の闇を取り除き、アルタイル星のマスターを助ける事が出来るのです。

皆さんが、頼りなのです。

今日の行動によって、アルタイル星だけでなく、この天の川銀河全体が素晴らしい光りの世界になるように祈っています。」

マスターベガは、今回参加してくれたメンバー達に祝福の光を送ってくださいました。

私達は、ベガの神殿を出て、白鳥の六芒星の結束を固めるために、今迄の星を巡りマスター達と気持ちを一つにしていきます。

ベガの神殿を出て、最初に向かったのは白鳥座です。

先日、同じ白鳥座のアルビオレ星、ギエナ星、デルタ星のマスター達を目覚めさせた事で、白鳥の光十字の光を取り戻し、白鳥座は昔ながらの光に戻ってきているようです。

デネブ星の女神アルターニャのもとにマスター達が集まって話を進めていたようです。

今日は、白鳥座のマスターや女神達は、気高く力に満ちた白鳥と共に、アルタイル星に一番近いアルビオレ星に多くの仲間達を従えて集まっています。

先頭には、勇ましい鎧を身に着けたアルビレオ星の5人のマスターが控えています。

彼らは、私達を見ると手を振って応えてくれます。

アルビオレ星を出て次に向かったのは、ペガサス座のエニフ星です。

エニフ星のマスターであるユニコーンのヒュードラさまは、以前来たときは、闇のエネルギーを自分の体に引き受けていたせいか、体もまだら模様で弱り切っていました。

それ以降、私達も何度も訪れ、ベガ星のスサノオさまの火の浄化やアスクレピオス様の癒し玉を与えてきました。

そして、この星のエルフやペガサス達も親身になって癒してくれたおかげで、今は美しいきれいなペガサスに戻りました。

ここはペガサス騎士団の精鋭部隊が、勇壮なペガサス達を従えて、アルタイル星の闇の浄化に努めるために出番をまっています。

そして、この星の気高きエルフ達も、勇敢そうな鳥にまたがり、手に光の槍を持って待ち構えています。

空を埋め尽くすばかりのペガサスと鳥の大群に、私達も驚いています。

私達が到着すると、ペガサス達が高い声で鳴きます

PART2 創造主のもとにマスター達が集合

トゥバンのマスターオブドラゴンを最後に、白鳥の六芒星にかかわるすべての星のマスター達がそろいました。

これから、仲間達で協力してアルタイル星へ入り、アルタイルの星へ光を送ります。

もしかしたら、闇の力から反撃を受けるかも知れませんが、今回は、創造主をはじめ、多くのマスター達がいるので安心です。

私達と各星のリーダー達が、北極星（ポーラスター）の創造主のもとに集まりました。

創造主は、いつもの老人のような姿ではなく、とても若々しい男性と女性のマスターに分かれていました。

まるで、東洋思想の太極から陰と陽が生まれ、新たな創造活動が始まる時の様です。

創造主もこの方が動きやすいから、と笑っています。

それぞれの星の中心メンバー達が創造主の前に勢ぞろいしています。

ベガ星からはスサノオの尊を中心にした天照グループ。

デネブ星からは大きな白鳥に姿を変えたアルターニャ。

エニフから真っ白い羽を広げたペガサス騎士団のリーダーであるアトス様

ケフェウス座のアルデミラン様は、今日は大天使の姿で参加されるようです

コカブ星の金太郎も小熊にまたがって張り切っています。

やはり頭には新聞紙で折った紙の兜と新聞紙を丸めた紙の刀です。（笑）

圧巻なのは、やはりトゥバンのドラゴン達でしょう。

その大きさもパワーも桁違いで、群れを成して空を飛んでいます。

私達も、18人のメンバーとトゥバンほどではないのですが巨大シェンロン達がそろっています。

そして、さそり座の勇者アンタレス様の騎士団とアルケイデースも私達を守護し、行動を共にします。

創造主から、私達のメンバーには、額や体に創造主の光の現れであるシンボルをいただきました。

偉大なる創造主様が、天地に響き渡るような声で仲間達を激励します。

「偉大なる光のマスター、女神、大天使、騎士団、そしてドラゴン達よ、
私達は今一つになってアルタイル星を闇の中から救い出さなければならない。
アルタイル星が光の世界に戻る事によって、私達の星々は、昔のように輝き始める事だろう。
私達は、天の川銀河の中において、神聖なる光を他の星々へと分かちあわなければならない。
その為に今日の日を迎えたのだ。
ここに集った者達の心をひとつにして挑んでいただきたい。」

創造主からメッセージをいただいた後に、それぞれの星から、アルタイルへ星と向かい、閉じ込められたマスターの救出が始まります。

第10章 アルタイルのマスターの救出

PART1 アルタイル星への救出活動



わし座は、鷲(わし)の姿を表した星座です。
少し形のくずれた十字形をしています。
セタの「ひこ星」として知られるアルタイルは
わし座の中心にある1等星で、
夏の大三角を作る星の1つとなっています。
ギリシャ神話では、人間に火を与えた罰として
岩山につながれたプロメテウスの肝臓をついばむ鷲
とも言われています。

今回のアルタイルのマスター救出の舞台となった星が
このアルタイル星です。今まで、闇の支配を受けて
荒廃してしまいましたが、今回の救出でまた光を取り
戻しました。
もともとは、ベガ&デネブと共にこの宇宙に偉大なる
光りをもたらすために働いていた星です。

© スタディスタイル

創造主の言葉が終わると、アルタイル星を闇のエネルギーから守るための行動が開始されました。

アルタイルの星に、真っ先に入ったのは、トゥバンのドラゴン達でした。

やはりアルタイル星には何が待ち構えているかわかりませんので、体も大きく空から活動できるドラゴン達に様子を見てもらい、出来る限りの闇の浄化をしてもらう必要があるようです。

ドラゴン達は、アルタイルの空を飛びながら、光で星を浄化しているようです。

ドラゴン達の大きなエネルギーは、まるで稲光のように、地中に降り始めました。

しばらくの間、アルタイル星は闇の中で稲光が光り輝き、まるで嵐のような光景を繰り広げています。

闇のエネルギーをこの星に持ち込んできた者達との争いがあるのか、あちらこちらで光がスパークする様子が見えます。

遠くから見ても、稲光が闇の中で輝くさまは壮大です。

白銀の光が闇を貫き、闇を光に変えていきます。

あるいは、白銀に輝くドラゴンの体を大きな闇が飲み込み、白銀の姿が消えていきます。

すさまじい光りと闇の応酬がしばらくの間続きます。

仲間達は、その勇壮な戦いを前に、アルタイル星にはいる事も出来ず、祈りながら見ています。

ドラゴン達の稲光が収まってくると、アルタイル星の闇が晴れて、少しずつ明るくなってきました。

ドラゴン達は、次に体から金粉をたくさん降らして、闇のエネルギーをどんどん浄化しています。

その様子を見て、ペガサス騎士団とエルフ達がアルタイル星に入ります。

ペガサスも高く空を飛びながら羽から銀の粉をまき散らし、アルタイル星のエネルギーを浄化します。

エルフ達は手にした光の槍をもって鳥の背に乗って地表に近いところを飛び回ります。

ところどころに固まったまま残っている闇の塊に、光の槍をつきたて、闇のエネルギーを破壊しています。

さそり座のアンタレス様は、私達がまだアルタイル星にはいるのは危険だという事で、私達を押しとどめています。

私達も、中で何が起きているのか、全く理解できない以上、むやみに入る事は控えなければなりません。

ペガサス騎士団達が、空中だけでなく地上にも降り立ったようです。

エルフ達も、鳥から降りたり乗ったりしながら、森の中や山々を駆け巡っているようです。

すごい速さと機敏さでいくつも山々を調べまわっています。

その時、ペガサス騎士団のアトス様から連絡が入りました。

「闇のエネルギーはだいぶ浄化を終わったようですが、未だ地表にはたくさんの闇の存在が残っています。

地上部隊を派遣してください。」

その言葉と共に、さそり座騎士団や白鳥座のマスターやフェアリー達、ベガ星のスサノオのグループがアルタイル星へと入ります。

彼らは、アルタイル星の各所に分かれて行動しています。
そして地上に隠れている存在を見つけだし、光へと変えていきます。
彼らによって星のエネルギーは、さらに清らかなエネルギーへと変わっていつているようです。

その様子を見届けたさそり座騎士団のアンタレス様は、私に向かって言いました。
「それでは TAKESHI さん、私達も入りましょう、アルタイル星のマスターは、あなた達でなければ助け出せないのです。」

PART2 アルタイル星のマスターの救出

私達もシェンロンに乗って、アルタイルへ星と入ります。
私は、夢で「ビジョン」と名乗る女性から、マスターの救出をお願いされていました。
彼女は、自分に残されていたすべての力を使い、マスターが地下にとらわれている事を伝えてきたのです。
そしてその場所に至る道筋のビジョンも送ってくれました。
最初の目標となるのは、闇の六芒星で閉ざされた大地の裂け目です。

シェンロンに乗って先に走っていた美緒さんが、その場所を見つけました。
彼女の行動力はとても機敏で、ドラゴンを操る能力もとても優れています。
「TAKESHI さん、見つけたわよ、あそこに目印があるわ、この六芒星の封印をとけば入れそうよ。」
彼女は、シェンロンの首をぐっと下に向けると、急旋回して大地の裂け目の上で止まります。
私達も、急いで後を追います。

大地に描かれた六芒星は、夢に見たビジョンでは、地下神殿につながる入り口です。
私達は創造主から頂いた額の六芒星の光を使い、闇の六芒星に光を送ります。
すると闇の六芒星は大きくはじけ飛び、その下に大地の裂け目が道を開きます。
私達は、シェンロンを操ってその裂け目から大地の中に入りました。

大地の裂け目を通り抜けると、中は空洞が広がっています。
私達はシェンロンに乗り、岩と岩の裂け目を抜けるようにして進んでいきます。
美緒さんを先頭に葵さんや遥さんもシェンロンにのって走っていきます。
さそり座のアンタレス様は赤いシェンロンに乗って周りを注意深く見渡しながら進んでいます。

まさに宇宙船で飛び回るスピルバーグの映画の様に、光景が移り変わっていきます。夢のビジョンの通り、私達のいく手を阻むように大きな岩壁が前に現れてきました。岩壁の天井部分には、隠れた通路がありそこを抜けていきます。ここから先は様々なトリックが仕掛けられているので危険です。

次は、水の壁のトリックが仕掛けられている壁です。

壁全体が滝のようになっていて、ちょっと見た目には通り抜けられないように見えるのですが、これは幻影ですので、その根元のところを通り抜けていきます。

次は、火の壁のトリック、これも壁の根元を通りぬけます

私達が通り抜けた後に、さそり座のアンタレス様がその仕掛けを素早く破壊していきます。さすが、連戦練磨の強者という感じです。

そして広い空間に出ました。

向い側にある出口には、闇のシールドが張っており、バチバチと火花が散っています。

私に送られてきたビジョンでは、この広間にマスターが鎖でつながれていたのですが、マスターの姿が見当たりません。

どこかに隠されているようですが、もしかしたら、あの火花を散らしている出口の先に閉じ込められているのでしょうか。

私達は火花を散らしているシールドを破って、中に入っていかなければなりません。

美緒さんが、手にした岩をシールドに向かって投げてみました。

すると岩が、シールドにあたると、火花を散らして粉々に砕け散ってしまいました。

「TAKESHI さん、これ、かなりやばいですね。」と美緒さんが言います。

言われなくても、見ればわかります。

私は、さそり座騎士団のアンタレス様にこのトラップを解消できないか尋ねてみましたが、アンタレス様も困った顔をしています。

アンタレス様やアウディケウス様達が様々な方法を試みますが、通常の方法では、このトラップは解除できないようです。

ここは、創造主様のお力を使わなければ突破できないようです。

私達はメンバー全員で額に指を当て、その闇のシールドに向かって光を放ちました。

するとそのシールドは、しばらくの間火花を散らしながら光に対抗していたのですが、やがて少しずつ後退して、最後には、はじけ飛んで行きました。

皆さんから大きな歓声が上がります。

「やっぱり、創造主の力はすごいね。」と美緒さんが言います。

私達は、シールドで隠された部屋の中に入ってマスターを探しましたが見つかりません。

中には、六本の柱が、六芒星を描くように立っていて、ふたが閉められている場所があります。

そこはある意味、石棺のようにも見えます。

「この封印も額の六芒星で破れそうね。」と葵さんが言います。

私達はその柱の封印を額の六芒星の光で破ると、そこに地下へと続く階段が現れました。

階段から、下に降りると、そこに力なくとらえられたマスターの姿があります。

金属製の鳥かごのようなものの中に閉じ込められているマスターは力なく気絶しているようです。

本当にどれだけ長い間、ここに閉じ込められていたのでしょうか、想像もつきません。

ここは、創造主様の力ではなく、アンタレス様とアウディケウス様が、自分達の剣を使って、金属製のかごの柱を曲げ、人が出入りできるような隙間を作りました。

さすがにこの2人では体が大きいのでかごの中に入れませんので、私が中に入り、美緒さんと協力して、マスターを引っ張り出す事にしました。

私達はマスターをかごから出してあげたのですが、ぐったりとして力がない様子です。

私達は、すぐに名医であるアスクレピオス様に来てもらい、マスターの手当てをお願いしました。

アスクレピオスは、緑の光の玉を使ったりしながら懸命の治療を続けます。

大天使ザドギエルと大天使ラジエルもやってきて、天使達の光も送っています。

その間、私達は傷ついたマスターの周りを取り囲み、マスターが早く回復してくれるように祈りをささげます。

その時に葵さんが、次のようなメッセージを受け取りました。

「これは すべての途上である。

「苦しみや痛みを伴わなければ救われぬ。」という考えが、あまりにも嚴重に意識そのものを捕えている。

もう そのステージは終了している。

私達は、そこを高く飛び越えてゆく。

磔にされた 意識は解き放たれる

新たな世界はそういうところであると誓う。

みつめてくれてありがとう。」

私達には、よく意味が分からないのですが、きっと捕えられていたマスターの心の声なのでしょう。

私達がマスター救出を終ると、フェアリー達が早速その洞窟のお掃除をしています。

きっと星の至る所でお掃除や星の光を取り戻すための作業が行われているのでしょう。

このマスターと同じように、閉じ込められていた存在達も、みんなの手によって助けだされたようです。

私達が、この地下の洞窟から出ると、ペガサス騎士団が迎えに来ています。

PART3 助け出された星の人々

私達は、ペガサス騎士団の案内で、この星の神殿のような場所に連れてこられました。

壊れかけた神殿は、ホビット達によって、片付けられ修復が行われています。

神殿の前の広場には、騎士団によって助け出された人達が傷ついた体を横たえています。

アスクレピオス様とその看護婦達、そしてたくさんのフェアリー達が一緒になって、彼らの傷の手当てをしているようです。

その中には、ベガ星の天のウズメ達のグループもいて一生懸命心に体の癒しを行っています。エニフ星のエルフ達は近くの星から薬草などをたくさん集めてきて祈りと共に看病に当たっています。

助け出された人達は、傷ついて力なく横たわっていますが、一人一人の顔には喜びと希望が満ち溢れているようです。

私達も、初めて星の救出を行ってみて、宇宙の中には、このように闇のエネルギーによって被害を受けた星がたくさんあるのだろうな、と辛い思いで考えています。

闇の力によって、いったいどれほどのマスターや人々、あるいは動物達が不幸な目に合っているのだろうか、

私達は、其れさえも統合し、光に戻していかなければならないのだろうか、あまりにも辛すぎる。

その場所にマスター達も集まってきました。

コカブ星の金太郎もその場にやってきました。

美緒さんが、この子は一体何をしているんだろう、と尋ねると、金太郎は新聞紙で丸めた紙をふりまわします。

そのあまりの可愛さに、みんなで爆笑するのですが、ふとおかしいなと私は思い、金太郎に、あなたの本当の姿を見せてくださいと頼むと、金太郎は何と、大きな羽を広げた大天使メタトロン様に姿を変えました。

大天使の中でも、最も神に近い叡智の存在。

みんなのあっけにとられてしまった顔を見ながら、大天使メタトロン様は、私達を褒めてくれました。

「皆さん、今回は本当に素晴らしい仕事をしてくれてありがとう。
皆さんが、仲間達を信頼して、アルタイル星の救出を行ってくれたおかげで、多くの人が救われました。
そして、これから、「大きな白鳥の六芒星」は光を取り戻し、天の川銀河も大きく変わっていく事でしょう。」

大天使メタトロン様に褒めてもらって、「宇宙の光」の女性達は舞い上がっています。
これほど素晴らしい大天使様達と、身近で語り合い、行動できる事がまるで夢のようです。
大天使メタトロン様は、喜んでいる女性達を見て微笑んでいます。ふっと私の方に顔を向けると、一言「これも試験なんだよ」とおっしゃいました。

試験・・・きっと地球の人類が、他の星のマスターと協力して、自分達のためでなく、地球や宇宙の為に働く事ができるのか、宇宙の人達を助けてあげるくらいの気持ちと能力があるのか、試されている。
私達に、もしその能力も気持ちもないという事がわかったら、地球を汚し破壊し続けてきた人類は、この地球にいる意味がなくなり、地球の次元上昇と共に、すべてが終わる。
大天使メタトロン様の思いが、私のハートに伝わってきます。

今まで地球人のエゴの為に、苦しめられた地球と星の人達。
私にできる事なら、皆さんの為に働きたい
地球に人類をそのまま残したい・・・という思いが、私の心の中に広がります。

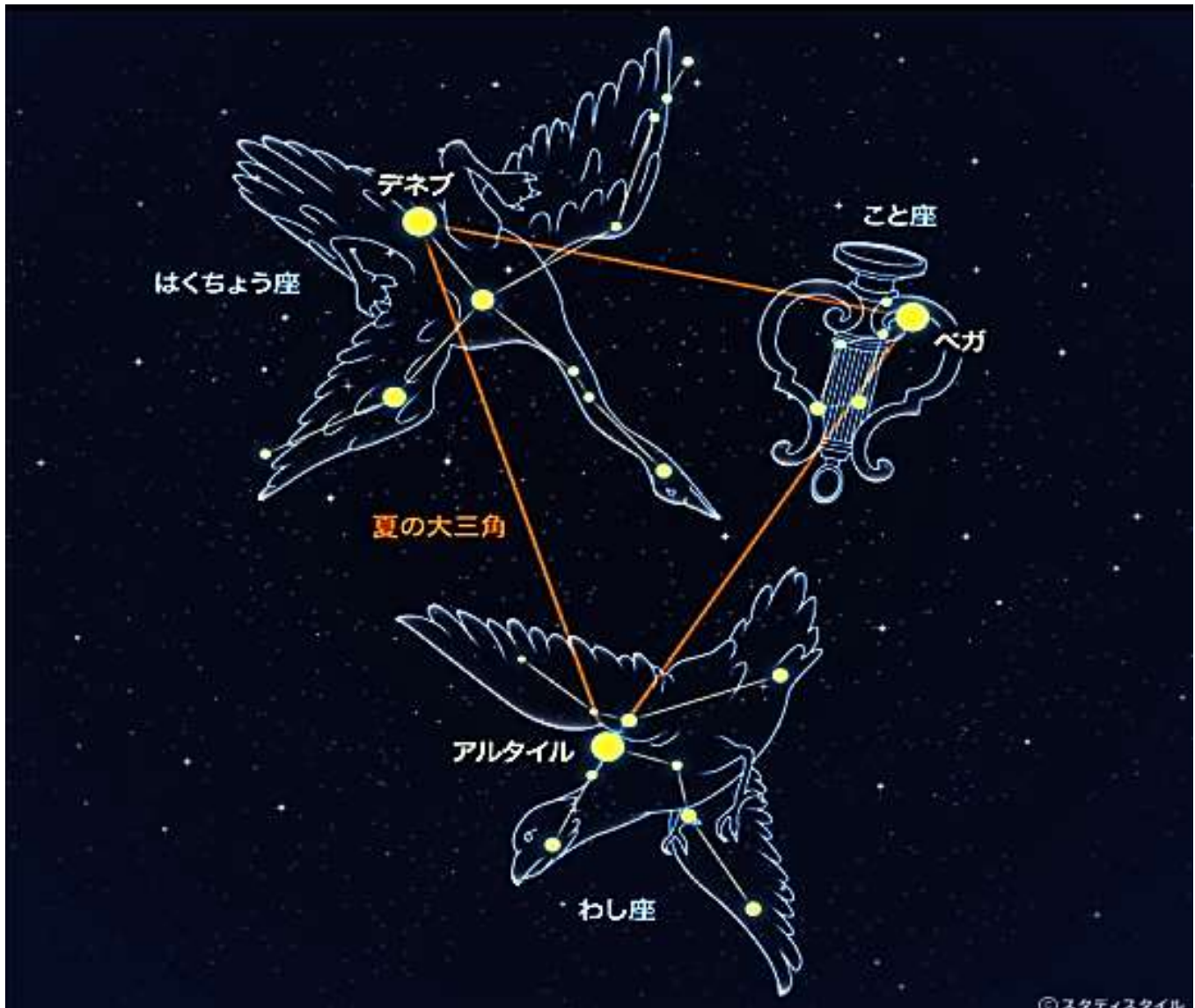
私達は、アルタイル星の人々を介護する人達と星を浄化する作業を行う人達を残して、引き上げる事にしました。
皆さん少し疲れたようですが、素晴らしい仕事をした達成感に満ち溢れています。
そして、これでアルタイル星が光の星に戻る事が出来、自分達の星も共に輝く事が出来る事を喜んでいます。

各星のリーダーは、北極星の創造主のもとに集まります。
これから、このアルタイル星をどのように浄化し元の星に戻していくのか、あるいは傷ついた星の人々をどのようにサポートしていくのか会議を行うようです。

しかし私達は、初めての体験で疲れ果ててしまいました。
私達の星のツアーは、今日はこれで終わりにして地球に戻る事にしました。
私達は、皆さんの拍手と歓声の中、シェンロンにまたがって、地球に戻り、それぞれの家に帰っていきます。
さすがに、今日の星のツアーが終わった後は、そのままお布団の上に転がりこんで寝てしまいました。

第11章 アルタイル星の再生

PART1 アルタイルへの再訪



アルタイル星のマスターを救出してから、1週間が達しました。

私達は、アルタイル星の様子を見に行くために、再度アルタイル星に向かいます。

アルタイル星のエネルギーはとてもきれいになっているのですが、未だ人々の傷も癒えておらず、星が復興するには、まだ長い時間がかかりそうな気がします。

アルタイル星の自然も荒れ果てており、植物も十分に育っておらず、今はとても寂しい荒野のように見えます。

しかし、多くの星々の助けて、必ずこの星は素晴らしい星に戻るはずです。

私達は、前回多くの人達を介護していた広場に行きます。

今は、神殿と広場を中心に、たくさんの家のようなものが作られ、傷ついた人々はそこに移されて看病をうけています。

元気な人や他の星からお手伝いに来た人達は、この神殿を中心に、アルタイル星の人達が住む家をつくっています。

その中でもひとまわり大きな家では、ベガ星の人達を中心に食事の準備も行われているようです。

ベガ星からたくさんの野菜や食物、水などが運び込まれ、アルタイル星の人々がこの場所で一緒に食事ができるようにしています。

この食堂は、アルタイル星の人にとっては大切な安らぎの場所です。

人々は笑顔でおいしい食事を分かち合っています。

そして、修復された神殿は、星の復興を行う為の準備をする場所になっており、様々な星の人達が入り出しています。

私達が、その場所に近づくと私が助け出したマスターがそこに待っていました。

彼は、横に同じような顔立ちをした女性を伴っています。

私はすぐに、彼女こそが、私にマスターの居場所を教えてくれた女性である「ビジョン」である事が分かりました。

「TAKESHI さん、よく来てくれました。

私達の星の人々を闇から救い出し、この星に新たな希望を与えてくれた事に、私達は感謝しています。

私の名前は、アルタイルのビジョンという名前です。

彼女は、私のパートナーであり、私達は2人で一つの働きをします。」

この2人は、心もスピリットも深くつながっていて、決して別々の存在ではないという事です。

どちらかに話しかけても、同時に2人に伝わっているという事で、区別する必要がないといわれました。

私は、2人に手を差し伸べながら言いました。

「いえ、皆さんを助けてくれたのは、北極星の創造主であり、ベガの天照大御神様やこの星系の仲間達です。

彼らは、皆さんの星を救うために一生懸命働いてくれました。

特にトゥバンのドラゴン達は、危険を顧みず、最初にこの星に入り、闇を浄化してくれました。」

「もちろん、私達は皆さん全員に深く感謝しています。

私達が、昔、自分達の力を誇示し、この星域の星々を自分達が支配できると思って傲慢な行動に出た事を私達は深く反省しています。

自分達の思い上がった気持ち、自分達の星だけでなく、大切な仲間だった星々の調和を見出し混乱に陥れた事を心から謝罪したいと思います。

そして、皆さんに大変なご迷惑をかけた私達を、まるで自分達の星のように、一生懸命救ってくれた皆さんの行動に心からお礼を言いたいと思っています。」

「マスターよ、これはもう過ぎた事です。

これから、皆さんは、再び真夏の空に輝く星々となって、星の住人と共に素晴らしい星を作ってください、それが恩返しとなってくれる事でしょう。」

私達は再会を喜びあいました。

マスタービジョンは、私達に丁寧に救出してくれたお礼を言い、再び過ちは繰り返さないとおっしゃられました。

私達は、共にアルタイルの再建のために力をつくす事を誓います。

「TAKESHI さん、手伝っていただきたい事があるのですが、」とマスタービジョンは私に言います。

「このアルタイル星には、様々な種族の人や生命達が住んでいたのですが、皆さん、この星が闇に落ちてから別の星や次元に避難してしまいました。

出来れば、彼らがこの星に戻って来れるように助けていただきたいのですが・・・」

私達は、マスターの願いを聞いて、アルタイル星に住んでいた人々を呼び集める事にしました。

私は、白鳥座のデネブ星の女神アルターニャにお願いして、多くの白鳥達に、他の星に逃れている存在達を、アルタイル星に連れてきてくれるようお願いしました。

多くの白鳥達がフェアリーと共に、デネブ星を飛び立ちました。

またりゅう座のトゥバン星のドラゴンマスターにもお願いして、別の次元に逃れている存在達をドラゴン達の力で、アルタイル星の次元に戻してくれるようお願いしました。

私達は、彼らがアルタイルの人達を連れ戻すまでにやらなければ、ならない事があります。それが、アルタイル星のパワーを高める事です。

様々な星や次元から人々が戻ってくるためには、星の通路をさらにパワーアップし強大な光を星にいれていかなければなりません。

そして、未だ自然が荒廃したままのアルタイル星をその光によって甦らせていくのです。

私達は、アルタイル星と他の星をつなぐ通路や光りのフロアーとアルタイル星をつなぐ星の通路に多くのクリスタルを配置し光を強化して行きます。

私はこの光の通路のために準備した巨大クリスタルのエネルギーの光とパワーを、このアルタイル星に送り込みます。

キラキラとしたエネルギーが、アルタイル星に吸い込まれるように流れ込んでいきます。宇宙の光のメンバー達も、クリスタルの光をアルタイル星と周りの星々に満たすようにシェンロンに乗って光の通路を走りまわっています。

白鳥の六芒星全体が、クリスタルの光で輝きこの宇宙の中に美しく輝き始めます。光はどんどんアルタイル星の中に満ちていき、星が輝き始め元気を取り戻していくようです。

私達は、次にアルタイル星の自然を取り戻す事にしました。

私達のハートは、大天使メタトロン様の宇宙の図書館にもつながっています。

今日は手元にあった宇宙の図書館と呼ばれるカテドラルクリスタルを手にもち、アルタイル星のマスタービジョンとハートを光でつなぎます。

私は大天使メタトロン様にお願いします。

「大天使メタトロン様、私達はアルタイル星の自然を復興させるために、アルタイル星にふさわしい植物や生命達を再び、この星に生み出してほしいのです。このアルタイル星を昔のように、緑豊かな星にしてください。」

大天使メタトロン様によって、彼の図書館から植物のエネルギーが、私の心の中に流れ込んできます。

そして私の心からマスタービジョンへ、そのエネルギーは伝わります。

そのエネルギーは、さらに私とマスタービジョンのハートから、アルタイル星へと広がります。

そうすると、私達の足元から、緑の植物が芽をだし、まるで緑の草原が生まれてくるように、どんどん周りに広がっていきます。

その植物はアルタイル星の荒野にどんどん広がり、荒れ果てた大地を覆います。

そして、緑の植物の中から、多彩な形をした植物や花、若い樹木が芽生えてきます。

大天使メタトロン様の力によって、アルタイル星の大地の力が目覚め、アルタイルを緑の星へと変えていくようです。

PART2 アルタイル星の新しい始まり

アルタイル星に、豊かな自然が広がり始めたころ、アルタイル星に白鳥達が降り立ちました。その白鳥の背から飛び降りてきたのは、なんととてもかわいい小人さん達でした。

白鳥座のフェアリーも小人と一緒にあって、白鳥から飛び降りてきます。
沢山のフェアリーと小人達が、一緒にあって新しいアルタイルの星で大騒ぎです。
彼らが駆け巡ると、そこに新しい花が開き、小さな昆虫のような生命も生まれてくるようです。
新たな自然の循環が、アルタイル星に生れてきます。

私達は、美しい花々や樹木で飾られた神殿へと移動します。
すでに数名の神官達が、神殿の中で祈りをささげ舞い踊っています。
神殿の横には、大きな光の塔のようなものが立ち輝いています。
光輝く塔はアルタイル星の再生を知らせる塔ですので、その輝きを目指して、多くの存在が集まってきます。

私達は、このアルタイル星に多くの天使達を呼び寄せました。4大天使はもちろん、今回の旅で仲良くなった、大天使ラジエル様、大天使ザドキエル様、そして小熊座の金太郎の姿をして現れた大天使メタトロン様。
他にも多くの天使達がこの地に降り立ち、アルタイル星に光を送り、星の新生を祝ってくれています。

やがて、トゥバンのドラゴン達に連れられて、ほかの次元に逃れていた存在達も戻ってきました。
彼らはエルフやマスタービジョンと同じような姿をした人々です。
きっと彼らがこの星の代表的な種族なのかもしれません。
彼らは、星に降り立つと、マスタービジョン達と力強く握手をしています。

そして、鷲に乗った騎士団達も空から到着しました。
彼らは、非常に勇敢で叡智にあふれた騎士団達ですが、アルタイル星が闇に蔽われて次元が降下したために、アルタイル星にいる事が出来なくなって、異なる次元へと退避していたようです。

勇壮な姿で、鷲に乗って飛び回る騎士団を見てたくさんの人々が歓声を上げています。
わし座の騎士団が、アルタイル星に戻ってきた事を、みんなが喜んでいます。
彼らは、マスタービジョンと再開の挨拶をするために、神殿へと降り立ちました。

沢山の小人達やエルフ、そしてフェアリー達が、アルタイルの星に戻ってきました。
昔からみんな仲間達の様です。
再会を喜び合い、歌ったり踊ったりしています。
そしてみんなで、家や野菜畑、そして果実園等いろいろなものを作り始めました。

ビジョン様は、アルタイ星の働きに関しても語ってくれました。

「このアルタイル星は、宇宙の様々な星に光を送るために使用されるのです。

皆さんが様々な星を巡られてお分かりになったと思いますが、この白鳥の六芒星と呼ばれる星系は、白鳥座を中心にいくつかの星座と星々が集まった集合体です。

私達は、北極星にいらっしゃる創造主様を中心として、まるで家族のように深いつながりを持って存在しているのです。

創造主様の光の中でも、創造や愛、ファンタジーに関するエネルギーは、白鳥座のデネブ星に流れ込み、海の生命体がたくさんいるサドル星から叡智のマスターの星であるアルビレオ星を通して、私達の星へ送られます。

また創造主の光の中でも、秩序や意識の進化、浄化などに関するエネルギーは、事座のベガ星を通して私達の星に流れ込みます。

また、トゥバン星を持つりゅう座のドラゴン達は、この宇宙に大いなるエネルギーとパワーを生みだしますし、ペガサス座は、叡智や守護の力を作り出します。

そしてアスクルピオス様の星は、癒しと浄化の力をもたらしてくれます。

北極星の創造主様と白鳥座の六芒星に関わる星々の中で生み出されたパワーが、全てアルタイル星へと流れ込んでくるのです。

私達は、これらの素晴らしい光をひとつに統合して、地球をはじめ、いくつもの星々に光を送ります。

私達は、この宇宙の中でも、これから育っていかなければならない星や傷ついて助けを求める星などに光を送っているのです。

そして、アルタイル星は、白鳥の六芒星の光を紡ぎながら、宇宙の中で新しく生まれる星達や新しい次元に対しても光を送ります。

皆さんの地球も成長する過程において、このアルタイル星からたくさんの光を送りました。その事によって、地球にはいくつものスピリチャルな次元が出来上がってきたのです。

私達は、かつて自分達が果たしている重要な役割に対して非常に傲慢になりました。

私達が、さもこの宇宙を支配しているかのような幻想に陥ってしまったのです。

私達の行いを戒め、真実の心に引き戻そうとアルビレオ星の賢者達が何度も忠告をしてくださいましたが、私達は自分の力に酔いしれて、彼らの言葉を受け入れませんでした。

いえ、反対に私達の邪悪な心を使って、アルビレオ星と白鳥座に隕石を落としてしまったのです。

その結果、私達は深い闇に飲み込まれる事になりました。

そして私達の心だけでなく、アルタイル星も闇の中に落ちてしまい、次元降下を引き起こしてしまいました。

多くの者達が、この星を去りました。

私達を常に守護していたわし座の騎士団も私達の前から姿を消してしまいました。

私達は、その直後、闇の力によって自由を奪われ、長い時間、闇の世界に閉ざされてしまったのです。」

アルタイル星のマスターは、自分の間違いを戒めるように、こぶしを固く握ります。

「しかし、皆さんのおかげで、私達は自分達の心の闇からも自由になりました。

アルタイル星と私達は、再びその力を取り戻します。

そして、今迄のように、白鳥の六芒星の光を統合し、この光を必要とするすべての星に、光を分かち合いたいと思っています。

アルタイル星が再び活動し始めたら、この宇宙の星々は再び美しく光輝き始める事でしょう。」

アルタイル星のマスター・ビジョンは、この宇宙や星々に対して素晴らしいビジョンを作りあげ、新しい星や新しい宇宙を作りあげていくお手伝いをしているようです。

私達は、仕事が終わった後に、ビジョン様から、私達のハートとサードアイを開き、私達がビジョンを見る能力を高めてもらう事にしました。

私達は、見えない世界を見る力、自分の内なる真実を知る力をくださいと、ともに祈りました

私達の、ハートに美しい光が輝き始めます。

第12章 アルタイル星の心臓に絡んだ闇の根

PART1 アルタイル星に残る闇の根っこの除去

私達がアルタイル星を再訪してから数日後、葵さんから連絡がありました。

彼女は、大天使やマスター達からメッセージを受け取り、私にそのメッセージを伝える事で、大切な問題が発覚するという事が良くあります。

「TAKESHI さん、アルタイル星の心臓と思われる部分に、闇の根が絡んでいて心臓を締め付けています。

この根をそのままにしていたら、また闇が復活する恐れがあるので、ラスアルハゲ星のアスクレピオス様に取り除いてもらわなければならないようです。」

私達は、白鳥の六芒星の仲間が、一緒になって再生させてくれた星を、再び闇の手に渡すわけにはいきません。

私達は急いでこの闇の根っこの撤去作業を行う為に行動する事にしました。

なぜなら、闇の根は、星の魂である心臓（コア）に寄生して、星の生命を吸い取っていくからです。

私達はまず、このメッセージをくれた天使にアドバイスをもらうために、天使の星へと行きました。

天使の星とは、天の川銀河の隠された場所にある星です。

この星には、天の川銀河の大天使達が集まる教会があり、そこには天の川銀河の大天使達や大天使の長老と呼ばれる方がいらっしゃいます。

私達は、「エンジェル・レイ」というアチューメントでこの星に行き、皆さんに大天使達に光を授けてもらいます。

また、天の川銀河の星の事で困った事があると、大天使の長老に相談する事も良くあります。

私と葵さんが天使の星に行くと、大天使の長老は私達を待っていてくれたようです。

「TAKESHI さん、今回は本当にご苦労じゃった。

私達大天使も、アルタイル星の事をとても気にしており、解決を願っておりました。

TAKESHI さん達が、その仕事をする事は分かっていたので、皆さんに早く成長してもらおうと、私達も様々な方法で、皆さんの能力を高めるお手伝いをさせてもらっておりました。

アルタイル星の事は、皆さんのおかげでうまくいったのだが、ひとつだけ厄介な問題が残っております。

それがアルタイル星の闇の根っこじゃよ。

アスクレピオス様におねがいして、どうか取り除いてもらってください。

私達からも大天使ラジエルを、お手伝いに送りましょう。」

天使の星では、大天使の長老から、闇の根を除去した後に、この種を植えなさいと、チュリップの球根のような大きな種をいただきました。

これは、星に希望と調和を生み出すための種のようなのです。

そしてこの作業を手伝うために、大天使ラジエル様が同行してくれる事になりました。

私達は、その種を持って、アルタイル星へ向かいます。

アルタイル星のマスターであるビジョン様とお話をしますと、ビジョン様は闇の根の事を知らなかったようで大変驚かれました。

「そのようなものがアルタイル星にまだ残っていると驚きです。

しかし、闇の力はとても大きく根深いものです。

それがこの星の心臓であるコアに入り込んでいては、アルタイル星も再び闇の力に置かされてしまいます。

どうか取り除いてください。」

そのように言って、マスターは、アルタイル星の中心メンバーや騎士団を呼び出し、私達の仕事を助ける準備に入ります。

私達は、アスクレピオス様の待つラスアルハゲ星に向かいます。

アスクレピオス様の神殿ではもうすでに準備がしてあり、迷彩服のような格好の特殊部隊がそばに控えています。

「TAKESHI さん、私達も大天使ラジエル様から、アルタイル星に関する話を聴いておりますので、すでに準備をしております。

今回は、アルタイルの惑星の心臓に根付いた闇の根ですから、通常の方法ではうまくいきませんので、大天使ラジエル様にも協力していただいて、魔法の力を使って、この闇の根を除去したいと思います。」

どうやら内視鏡のようなものを取り付けて、魔法の力で闇の根っこを取り外していくようです。

私達は、大天使の長老から預かった種を持って、特殊部隊と共にアルタイルへと戻ります。

アルタイル星につくとすぐに作戦開始です。

マスタービジョン達も、私達の行動をサポートしてくれます。

大天使ラジエルが、特殊部隊に制限時間を知らせる砂時計を渡すと同時に、地表から地下に

続く階段を作り出しました。

どうやら、魔法の力で、地球の地殻を抜けて星のコア（心臓）にたどり着く通路を作りあげたようですが、長い時間は、この魔法の通路を保つ事はできないようです。

アスクレピオス様の特殊部隊と私は、階段が現れるとすぐに、その階段を下りて惑星の中心へと向かいます。

しばらく進むと、海のような水をたたえた場所につきます。

大天使ラジエル様は、水を二つに分け、その間にさらにトンネルを作ります。

特殊部隊が、その通路を走り抜けて進むと、やがて突き当りのような場所に、巨大な心臓のようなものを発見します。

特殊部隊はその場所を調べると、背中に担いでいた器具をおろし、その壁に取り付けました。

取り付け終わると、すぐに無線でアスクレピオス様に連絡を取っているようです。

彼はその事が終わると、大天使の長老から頂いた種をその場において、こちらに戻り待機しています。

葵さんは、アスクレピオス様の神殿で、彼の仕事をしています。

驚いた事に、そこは現代のハイテクな医療室のようです。

大きなモニターが何台もあり、そこにアルタイル星の心臓の様子があらゆる角度から写し出されています。

アスクレピオス様はマジックハンドのようなものを操作して、闇の根をピンセットのようなもので丁寧に取り除いています。

さすがに大天使ラジエル様が加わると魔法によって星の外科手術も可能になるようです。

闇の根の除去が終わり希望の種の埋め込みが終了すると、特殊部隊は心臓に取り付けられた機械をはずし、開いた傷口を縫合しています。

その作業が終了すると、私達は階段から急いで撤退します。

これで、アルタイルの心臓から闇の根は取り除かれたのでひと安心です。

PART2 闇のエネルギーが噴火する

今回は、アルタイル星の心臓部分に残っていて、星のエネルギーを吸い尽くす闇の根を無事に除去する事ができました。

しかし問題は、これだけでは終わりません。

次は、アルタイル星の火山の様な場所から、大きな闇のエネルギーが噴出してきました。

私がアルタイル星の様子を見に行ったときに、マスタービジョンが困った顔をして私の前に現れてきました。

「TAKESHI さん、大変な事になりました。

突如火山のような島が吹き上がり、みんなが困っているのです。

そのガスがとても有毒で小人達も逃げ回っています。」

アルタイル星は、ホビットやフェアリー達が戻って、各所にお花畑や野菜畑が出来ていました。

彼らは自然の中で楽しみながら仕事をするのが好きなのです。

彼らのお花畑から少し離れたところに海のような広くて水で覆われた場所があるのですが、その中央から、海底火山のように、赤く燃えたぎったような島が盛り上がり黒い煙を噴き上げています。

それは、闇の力の残りかす、という感じの火山です。

火山の上空にいくと、赤黒いマグマのような粘着質な泥がうごめいて、時々黒い煙とガスをぶわーっと噴出していました。

この煙とガスをどうしたらよいかと、横にいるアルケイデースに聞くと、

「このガスはとても有害なので片付けなければなりませんが、この火山に蓋をしても、いつかは蓋を突き破るでしょう。」

私はしばらく目を閉じて考えます。

光の蓋をしてもいつかまた噴出するなら、蓋をするだけでは解決になりません。

すると、黒い岩でできた火山の下から、その黒い粘着質の泥を押し上げ、光の玉にいれて、光に還すイメージが浮かびました。

私は、魔法使いでもある大天使ラジエル様を呼び出しました。

「大天使ラジエル様、私は、この火山の中に残る闇のエネルギーを光の魔法で救い出し浄化したいのですが手伝ってもえますか。」

大天使ラジエルも喜んでほほ笑んでいます。

私は、火山の周りを大きな銀色の反射板でできたような箱で取り囲みました。

火山の中にたまった泥は、魔法の光によって反射板の中でどんどん光にかえられていきます。アルタイルを光の星にするために働いていた人達もその建設の手を休め、その火山と箱の周りにどんどん集まります。

小人やフェアリー達をはじめ、エルフや星の人々も集まります。

そして皆さん一緒に祈り始めました。

皆さんで光を送ると、その四角い箱の中の黒い粘着質なかたまりが気化して、蒸気のように
なって箱から出ていきます。

黒いかたまりは、アルタイル星の人々の祈りの力で、光に変わりどんどん小さくなっていき
ます。

更に、仲間も増え、アルタイル星の様々な種族が一つになって光を送ると、黒いかたまりと
光が絡んで渦をまきはじめ、陰陽のマークが見えました。

私は闇と光が一つに統合されるように祈ります。

すると、その陰陽のマークがものすごい光を発して光の爆発みたいになり、パーンとはじけ
ました。

光は、大空に飛び散り、まるで星のように上空にキラキラと散っていきました。

アルタイル星のたくさんの種族の人々達が喜んでいます。

アルタイル星のいくつもの種族の人達もこれで一つになれていったようです。

新しいアルタイル星の歴史の始まりです。